

# Blustream

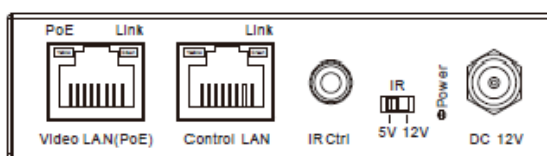
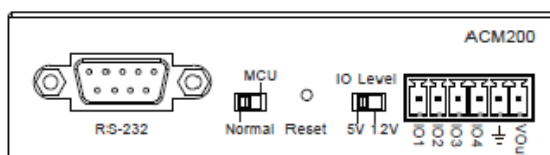
## マルチキャスト

## アドバンスドコントロールモジュール

## ACM200

## 取扱説明書

(IP50HD シリーズをご利用になられる場合の取扱説明書です。)



### ご注意:

ACM200のファームウェアには、

- ①IP200UHD シリーズ専用
- ②IP50HD シリーズ専用

がございます。

ご利用いただく前に接続されるシリーズに合わせて専用ファームウェアをアップデートしてください。

※初回アップデート後は、ACM200 本体のリセットボタンを押して、必ず工場出荷状態にしてからご利用ください。

## 改定履歴

バージョン	提供日	変更点
Ver1.0	2021/09/16	初版
Ver1.1	2021/12/10	IP50HD専用ファームウェアを初回インストール時の注意点追加
Ver1.2	2023/06/30	連絡先情報の更新

## 安全上のご注意

この度は、ACM200 をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。



この取扱説明書は、本製品の使い方と使用上の注意事項について記載しています。


本製品をご利用になる前に必ず本書をお読みになり、内容をご確認のうえにご利用ください。本製品を安全に正しくお使い頂き、お使いになる方や他の人への危険、財産への損害を未然に防止するために守って頂きたい事項を示しています。

### 安全にお使いいただく為に

誤った取扱いをした場合に生じる危険とその程度を次の区分にて説明します。

本取扱説明書内に使われている記号(例)の意味は下記の通りです。

 <b>警告</b>	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重症に結びつく可能性があるもの。
 <b>注意</b>	誤った取り扱いをしたときに軽傷または建築物・財産などの損害に結びつくもの。

	操作に関するヒントまたは追加情報です。
---	---------------------

**警告**

- 本製品は屋内での使用に限ります。
- 本取扱説明書で記載されている以外の使い方をしないでください。本取扱説明書の指示に従わずに起きた、いかなる事故・損害に対して、弊社は一切責任を負いません。
- 機器内部に燃えやすいものや、金属などを入れないでください。また、水などをかけないでください。感電や火災の恐れがあります。上記の状態になった場合はすぐにご使用を中止し、販売店または弊社カスタマーサービスにご連絡ください。
- 本製品および、使用するケーブル類を他の高温部(暖房機器など)に近づけないでください。変形したり、保護部が溶けたりし、感電や火災の恐れがあります。
- 本製品の分解、改造は絶対に行わないでください。機器の故障や感電、火災などの恐れがあります。使用中に本体から煙が出たり、異臭・異音等が発生したりする場合は、すぐに使用を中止して、PoE電源供給LANケーブル(またはACアダプター)およびご使用のすべてのケーブルを抜き、販売店または弊社までご連絡ください。
- LAN ケーブル、または AC アダプターを抜き挿しする場合は、必ず挿入部を持って抜いてください。コードを引っ張って抜いたりすると、ケーブルの断線、動作不具合、感電や火災の恐れがあります。

**警告**

- 濡れた手で、本製品およびケーブル類を触らないでください。感電や故障の恐れがあります。
- お手入れの際は、接続ケーブルをすべて抜いてから行ってください。また、科学雑巾、ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。水洗いは絶対に行わないでください。変色や変形、故障の原因になります。汚れがひどい時は、薄めた中性洗剤を柔らかい布に付けてよく絞ってからふき、その後乾いた布で水分を拭き取ってください。
- 本製品は安定した場所に設置してご使用ください。不安定な場所から落としたり、ぶついたりするなどの衝撃を与えないでください。故障や破損の原因となります。
- 長時間ご使用にならない場合は、安全のためLANケーブルやACアダプター、ケーブル類を全て抜いて保管してください。火災や故障の恐れがあります。
- 本製品は直射日光にあたる場所や、冷暖房機器の近く、温度の高い所(結露しているところ)、ほこりや油、薬品、水などがかかる場所には設置しないでください。

 注意

- LANケーブルやACアダプターの取付け取外しの際は慎重に作業を行ってください。機器の故障の原因となります。
- Cat 5e/6 LANケーブルは、電気ケーブル、変圧器、照明器具などの電波干渉の発生源となりうるものから、できるだけ離れた場所に配線するようにしてください。また、これらのケーブルは、電線用導管などに接続したり、電灯設備の上に置いたりしないでください。
- 本製品を密閉された場所、屋外での使用や、長時間の連続使用は避けてください。
- 別売りのACアダプターは専用品です。他社製品はご使用になれません。
- 本製品両側の排熱口を塞がないようにしてください。排熱がうまくいかずに故障する恐れがあります。また、排熱口を定期的に掃除してください。

 注意

- 本機に接続するケーブルには抵抗入りケーブルを使用しないでください。
- 本製品を譲渡された場合、または中古品に関するサポートは致しかねます。
- 外部的な要因(破損や水没、漏電、過電流など)や、天災などによる故障破損は、サポート対象外です。
- 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従ってください。内容については、各地方自治体へお問い合わせください。
- 電源を入れたまま、ケーブルの抜き差しを行わないでください。損傷の原因になり、この原因による故障はサポート対象外となります。
- 本製品を分解されますと保証の対象外となりますのでご注意ください。

※製品のデザイン、仕様、外観、価格は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

# 目次

改定履歴 .....	2
安全上のご注意 .....	2
製品概要 .....	6
製品特長 .....	6
各部名称 - ACM200 .....	7
ACM200 接続端子 - LAN、RS-232 .....	8
ACM200 接続端子 - IR コントロール .....	9
ACM200 ネットワーク接続方法 .....	11
設定の準備 .....	12
ウェブ GUI ガイド .....	12
サインイン / ログイン .....	12
新規プロジェクトセットアップ .....	14
ウェブ GUI メニュー説明 .....	20
Drag & Drop コントロール .....	21
プレビュー .....	22
プロジェクト設定 .....	23
トランスミッタ設定 .....	24
トランスミッタ設定 - Actions .....	25
レシーバ設定 .....	27
レシーバ設定 - Actions .....	28
固定信号ルート設定 .....	30
オーディオ信号ルーティング .....	31
IR 信号ルーティング .....	31
ログインアカウント設定 .....	32
ログインアカウント設定変更 .....	33
ACM200 本体設定 .....	34
ACM200 一般設定 .....	35
ファームウェアアップデート .....	37
管理者用ログインパスワードの変更 .....	41
RS-232 通信ルーティング .....	42
Blustream IR コマンド .....	43
シリアル(RS-232)通信及び Telnet コマンド .....	43
レシーバ(出力)コマンド .....	44
トランスミッタ(入力)コマンド .....	45
ACM200 汎用コマンド .....	47
ステータス情報応答例 .....	49
トラブルシューティング .....	51
PC の設定 - TFPT & Telnet を有効にする .....	52
PC の設定 - IP アドレスの固定方法 .....	53
主な仕様 .....	55
外形寸法 .....	55
サポート専用ダイヤル及び専用メールアドレス .....	56

## 製品概要

アドバンスドコントロールモジュール ACM200 はビデオ配信用ネットワークスイッチと、他の用途向けネットワークスイッチとをブリッジの役割として接続し各ネットワークスイッチでのトラフィックパフォーマンスの最適化を保持する他、TCP/IP、RS-232、IR 経由でのサードパーティコントロールシステムとの統合が可能です。マルチキャストシステムのコントロールや設定をウェブインタフェース経由で提供しドラッグ・アンド・ドロップでの映像ソース選択やプレビュー、各送受信機 IR、RS-232、USB/KVM、オーディオ、ビデオソースを個別にルーティングする機能を有します。その他、専用 iOS/Android アプリ「ドラッグ・アンド・ドロップ TV」との接続が可能でタブレットやスマートフォンからのコントロールも可能となります。マルチキャストシステム構築を行う上で複雑なネットワークインフラストラクチャーをより簡単に設定が可能となります。

## 製品特長

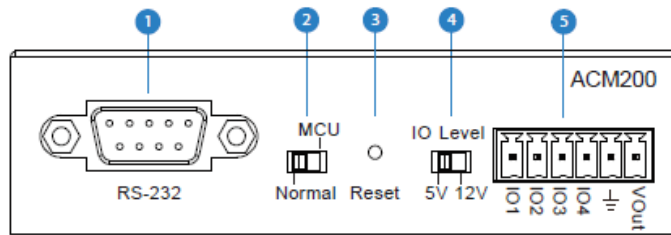
- Blustream マルチキャストシステムの設定やコントロールをウェブ GUI で提供
- 「ドラッグ・アンド・ドロップ」による直感的な映像表示コントロールやモニタリング
- ユーザー権限機能による操作権限割り当て
- IR、RS-232、USB/KVM、オーディオ、ビデオ信号を個別にルーティング
- ネットワークシステム設定の簡素化
- 2 つの LAN ポートを搭載しビデオ配信用と業務用等他の用途向けネットワークスイッチをブリッジ接続
  - 各ネットワークスイッチでのトラフィックパフォーマンスを最適化
  - 複雑な設定不要
  - LAN ポート毎に個別 IP アドレス保持
  - マルチキャストシステムでのシンプルな TCP/IP コントロールを提供
- RS-232 や IR 経由での外部システムからのマルチキャストシステムコントロール
- ネットワークスイッチからの PoE 電源で動作
- DC(12V/1A)入力対応 ※AC アダプター別売
- iOS と Android アプリ経由でのコントロール
- 他社製コントロールシステムとの統合

### ご注意:

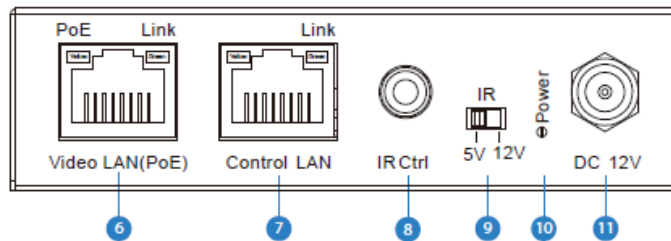
Blustream マルチキャストシステムは、HDMI ビデオをレイヤー3 マネージドネットワークハードウェア経由で配信します。Blustream マルチキャスト製品は、不要な干渉や他のネットワーク製品の帯域幅要件による信号パフォーマンスの低下を防ぐために、独立したネットワークスイッチに接続することをお勧めします。Blustream マルチキャスト製品を接続する前に、この取扱説明書の説明を読んで理解し、ネットワークスイッチが正しく構成されていることを確認してください。正しく構成されていない場合、システムとビデオのパフォーマンスに問題が発生します。

# 各部名称 - ACM200

## ACM200 - 前面



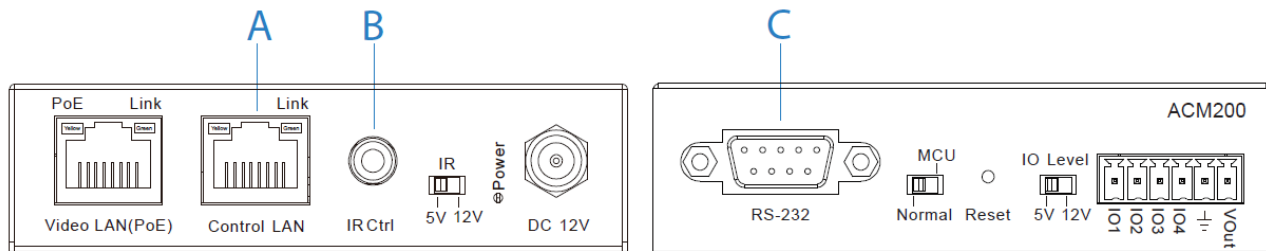
## ACM200 - 背面



- ① RS-232 端子 - サードパーティコントロールデバイスと接続しマルチキャストシステムを制御できます。
- ② MCU アップデートスイッチ - 使用しません。“Normal”の位置でご使用ください。
- ③ リセットボタン -設定をリセットします。10 秒以上長押しすることで工場出荷時設定に戻ります。
- ④ IO Level スイッチ - 使用しません。
- ⑤ IO Level 端子 - 使用しません。
- ⑥ ビデオ LAN (PoE)端子 - ビデオ配信用ネットワークスイッチへ接続します
- ⑦ コントロール LAN 端子 -既存のネットワークスイッチに接続します。制御 LAN ポートでは、Telnet / IP 通信でのコントロールに対応します。PoE 非対応。
- ⑧ IR 入力端子 - 3.5mm ステレオミニジャック端子です。サードパーティ制御システムとの接続が可能です。付属の 3.5mm ステレオ-モノラルケーブルを使用する場合は、ケーブルの方向が正しいことを確認してください。
- ⑨ IR 設定 - IR 電圧レベルを切り替えます(5V または、12V)。
- ⑩ 電源 LED - 電源供給状態を LED ランプで示します。
- ⑪ 電源入力端子 -PoE での電源給電を行わない場合に使用します(AC アダプター別売)。

# ACM200 接続端子 – LAN、RS-232

ACM200 通信ポートは本体前面・背面パネルに配置されています。各端子の機能は下記の通りです。



## 接続端子の機能

- A. TCP/IP(RJ-45) - 全てのマルチキャスト機能を制御できます。
- B. IR 入力(3.5mm ステレオジャック) - マルチキャストでのスイッチング制御のみ対応。
- C. RS-232(DB-9 ピン) - 全てのマルチキャスト機能を制御できます。

### ご注意:

ACM200 は、5V および 12V の IR ラインシステムに対応しています。IR ライン入力の仕様に合わせて正しく選択されていることを確認してください。

## TCP/IP

TCP/IP で制御します。

制御コマンドの一覧は本書「RS-232 及び Telnet コマンド」をご参照ください。  
ネットワークスイッチには、ストレートタイプの LAN ケーブルで接続してください。  
初期値は下記の通りです。

接続ポート:	23
IP アドレス:	192.168.0.225
ログインユーザー名:	admin
ログインパスワード:	1234

## RS-232

RS-232 でのシリアル通信で制御します。

制御コマンドの一覧は本書「RS-232 及び Telnet コマンド」をご参照ください。  
初期値は下記の通りです。

ボーレート:	57600
データビット:	8 ビット
パリティ:	なし(None)
ストップビット:	1 ビット
フローコントロール:	なし(None)

ボーレートは、ウェブ GUI 経由か RS-232 または Telnet 経由で以下のコマンド送信で変更可能です。

RSB x : RS-232 ボーレートを x bps に設定します。

X = 0: 115200、1: 57600、2: 38400、3: 19200、4: 9600

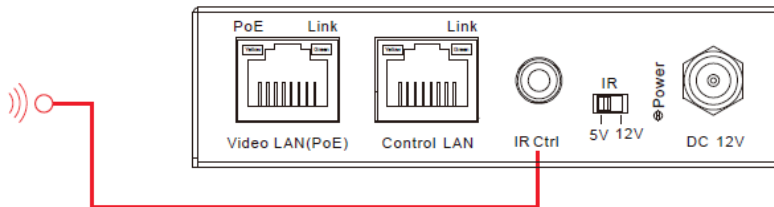


## ACM200 接続端子 - IR コントロール

マルチキャストシステムは、サードパーティコントロールシステムから IR 信号を送信することで制御できます。オーディオエンベッドなどの ACM200 の高度な機能は、RS-232 または TCP/IP 経由にて制御が可能です。

IR信号での制御は、最大 16 入力(トランスミッタ)及び、最大 16 出力(レシーバ)の切り替えが可能です。16 台以上の各トランスミッタ及びレシーバを制御するには、RS-232 または、TCP/IP 経由にて制御してください。

サードパーティコントロールシステム  
(ソース選択操作のみ)



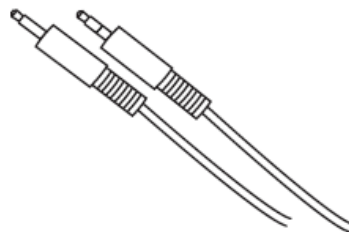
ACM200 は、5V と 12V の IR 電源ラインに対応します。IR 入力(IR Ctrl)に IR ケーブルを接続する前に、ご利用になられる制御システムの IR 電圧ラインに対応した電圧に隣接するスイッチから設定を切り替えてください。

### ご注意:

Blustream 社製品は全て 5V IR 電源ラインを採用しています。

### 3.5mm ステレオ to モノラル IR ケーブル(付属)

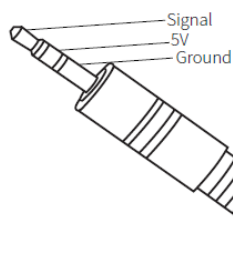
12V の IR 電源ラインを採用したサードパーティ制御システムと接続する場合にご利用ください。



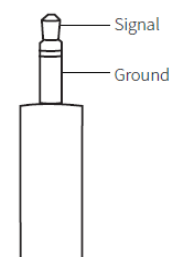
### ご注意:

接続する際のケーブル端子の方向をご確認の上、接続してください。

ピン結線 - ステレオ 3.5mm ジャック側

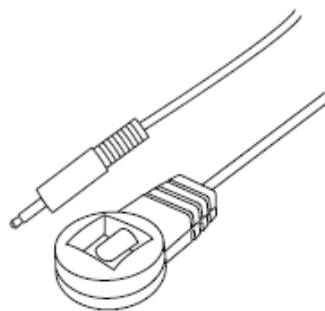


ピン結線 - モノラル 3.5mm ジャック側



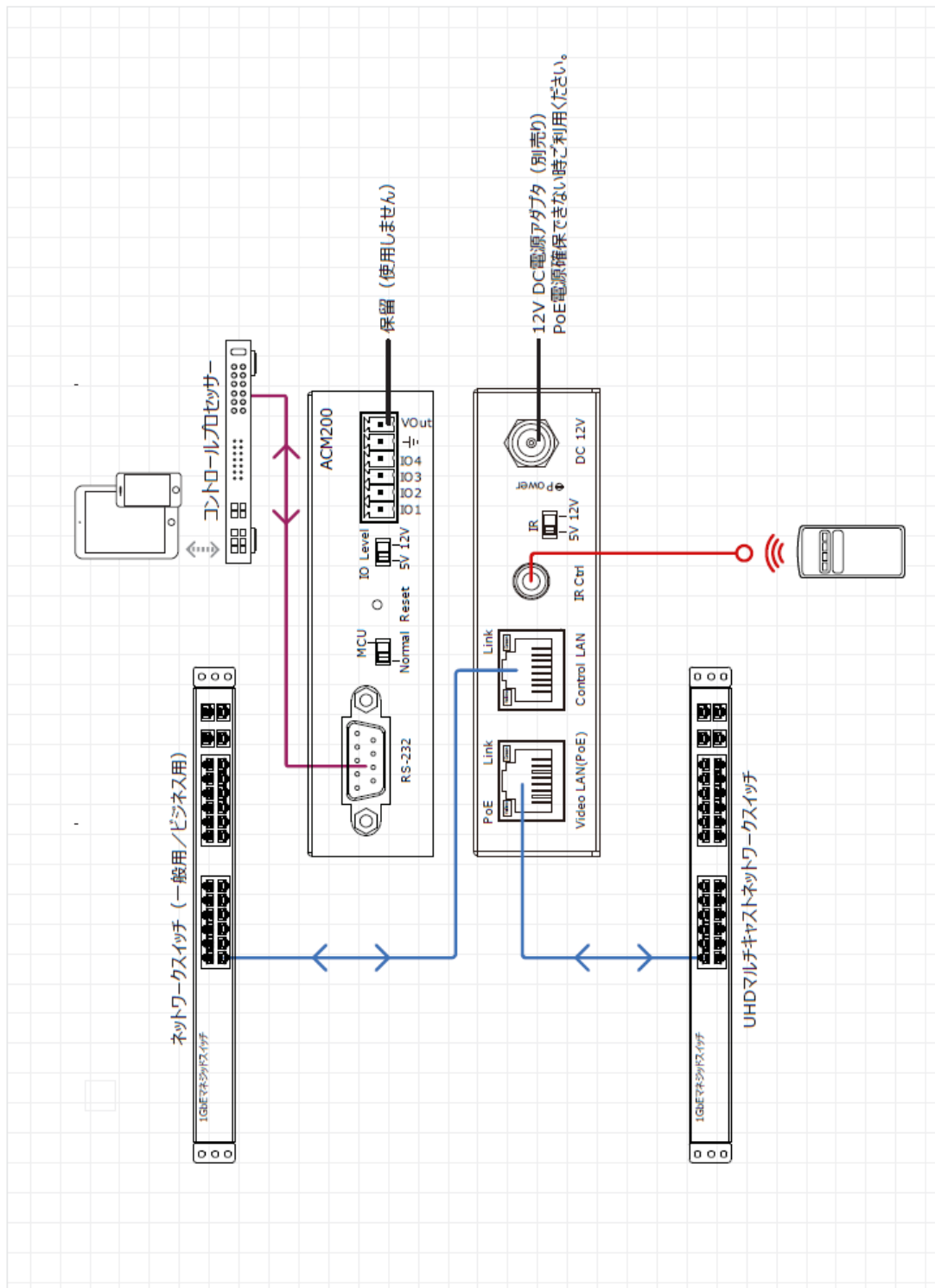
**IR レシーバ - ステレオ 3.5mm ジャック(別売)**

Blustream 5V IR レシーバは、IR 信号を受信し、Blustream 製品を介して送信します。



# ACM200 ネットワーク接続方法

ACM200 は、ビデオ配信用ネットワークと他の用途向けネットワーク間でブリッジの役割として機能し、各ネットワークスイッチでのトラフィックパフォーマンスを最適に保持します。ACM200 は、最大 100m 以内の長さの CAT ケーブルで接続してください。



BLUSTREAM

接続図

ACM200

IRケーブル  
RS-232  
LANケーブル

## 設定の準備

ACM200、及びコントラクターシリーズは、設定を行う前に最新ファームウェアへのアップデートが必要です。ファームウェアが最新でない機器が混在すると、機器を認識できなったり、うまく動作しない場合があります。

ファームウェアアップデートの詳細方法については「P.37 [ファームウェアアップデート](#)」をご参照ください。

## ウェブ GUI ガイド

ACM200 ウェブ GUI では、システム自動構成の他、ビデオ配信ネットワークに接続された送受信機の制御とモニタリングが可能です。ウェブ GUI は、同じネットワークセグメント上にある PC、タブレット、スマートフォンなどのウェブブラウザからアクセス可能です。

### サインイン / ログイン

ウェブ GUI にログインする前に、アクセスするデバイス(例: PC/タブレット)が ACM200 のコントロールポートと同じネットワークセグメントに接続されていることを確認してください。PC の固定 IP アドレスを変更する方法については、本マニュアルの「」をご参照ください。

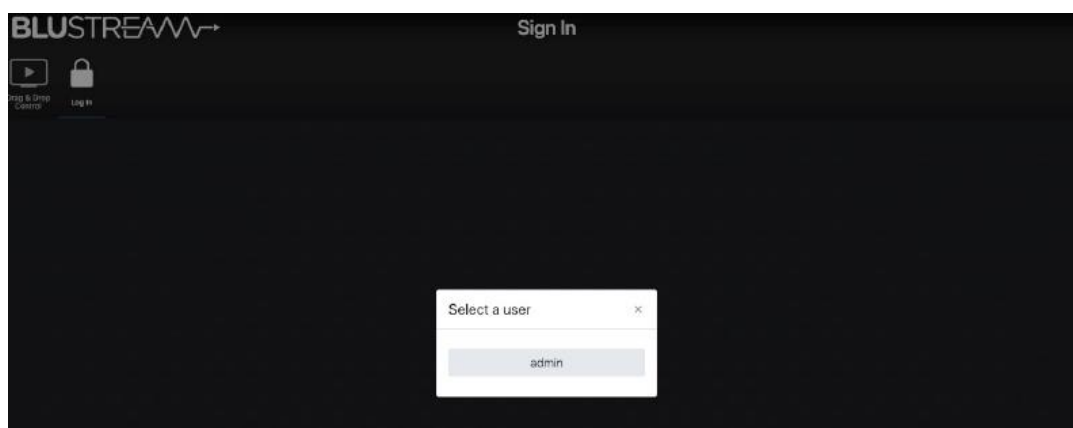
ログインするには、ウェブブラウザ(Chrome、MS Edge など)の URL 入力欄に、ACM200 のデフォルトの固定 IP アドレス入力してください。

ACM200 デフォルト IP アクセスは下記の通りです。

**192.168.0.225**

#### ご注意:

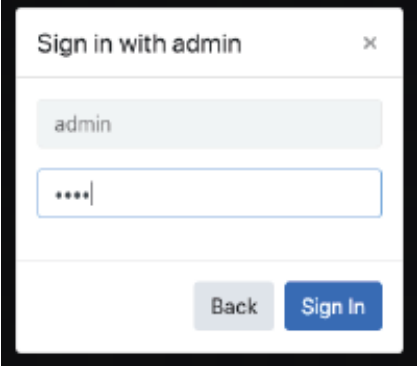
ACM200 の出荷時には、固定 IP アドレスが設定されています。



ウェブ GUI に接続すると、サインイン画面が表示されます。管理者 'admin' 以外の他のアカウントも作成できます。作成したログインユーザーID はログイン画面で表示されます。

ユーザー名 'admin' の初期ログインパスワードは下記の通りです。

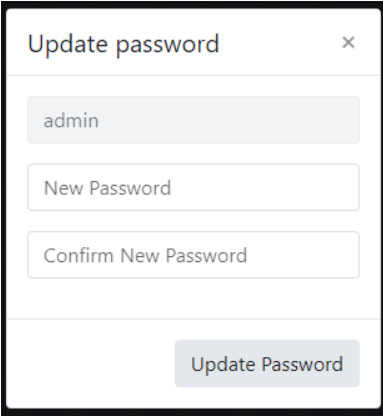
1234



The screenshot shows a login window titled "Sign in with admin" with a close button (x) in the top right corner. It contains two input fields: the first is labeled "admin" and contains the text "admin"; the second is a password field with four asterisks "\*\*\*\*" and a cursor. At the bottom, there are two buttons: "Back" and "Sign In".

**ご注意:**

ACM200 のウェブ GUI へ初めてログインする際、初期ログインパスワードを入力した後、パスワード変更画面が表示されます。新しいログインパスワード(半角英数、符号 16 文字まで入力できます)を設定してください。(初期ログインパスワードと異なるパスワードに設定してください)



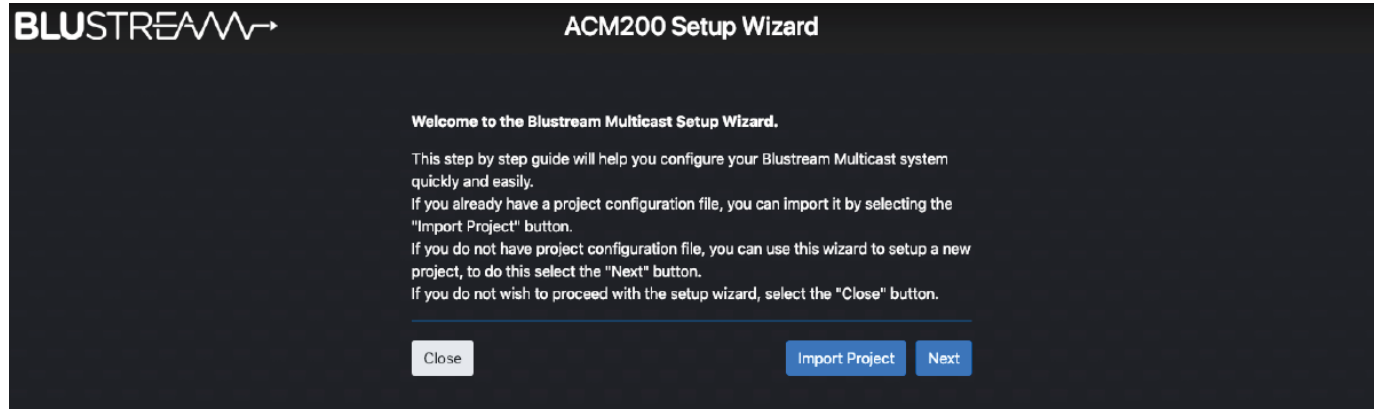
The screenshot shows a "Update password" window with a close button (x) in the top right corner. It contains three input fields: the first is labeled "admin" and contains the text "admin"; the second is labeled "New Password"; the third is labeled "Confirm New Password". At the bottom, there is a button labeled "Update Password".

## 新規プロジェクトセットアップ

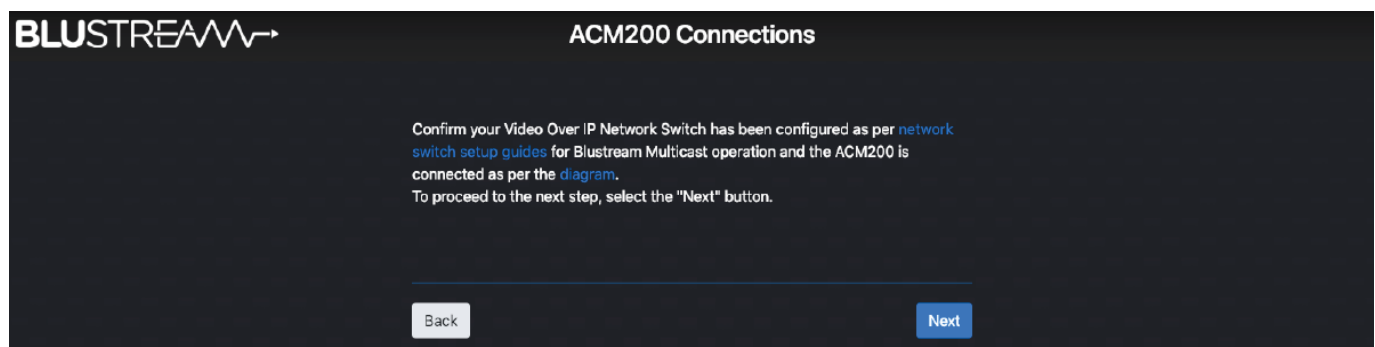
初回ログイン時、新規プロジェクトセットアップ画面が表示されます。

すべての新規(または出荷時設定)トランスミッタ、レシーバを同時にネットワークスイッチへ接続すると自動的に各端末へ IP アドレスが割り振られ基本的なシステム利用に必要なマルチキャストシステムが構築されます。

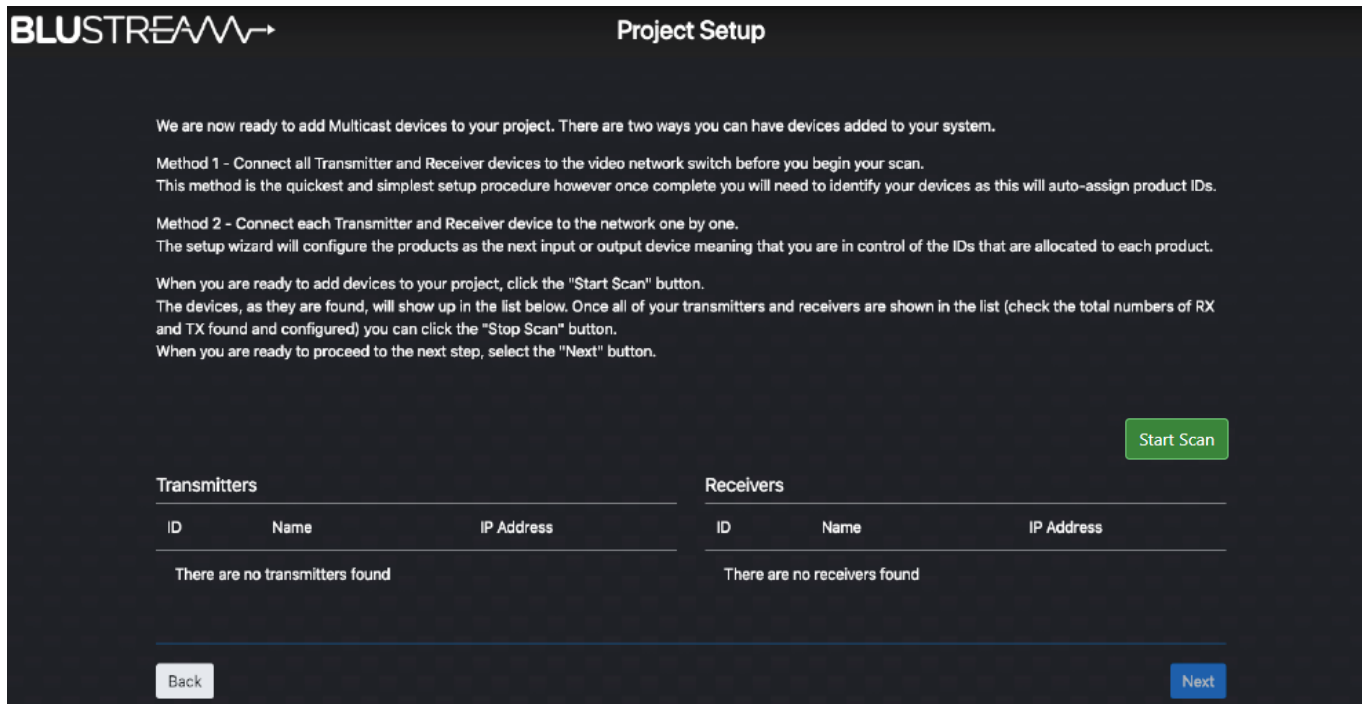
### セットアップ手順



1. 'Next' を選択し、新規プロジェクトのセットアップを開始してください。  
 'Import Project' - プロジェクト設定ファイル(.json ファイル)を読み込みます。  
 'Close' - 新規プロジェクトセットアップをキャンセルします。



2. マルチキャストに使用するネットワークスイッチの設定が完了していることを確認してください。ネットワークスイッチの設定が完了している場合は、'Next' を選択してください。



3. トランスミッタとレシーバをマルチキャストシステムに追加します。トランスミッタとレシーバをマルチキャストシステムに追加するには 2 つの方法があります。

**方法 1:** トランスミッタ及びレシーバを工場出荷時設定の状態(デフォルト IP アドレス: 169.254.100.254)でネットワークスイッチに接続します。ACM200 は接続された端末を認識し各端末に IP アドレスと端末IDを自動で割り振ります。

**方法 2:** トランスミッタまたは、レシーバを 1 台ずつネットワークスイッチに接続して追加します。この方法では、各トランスミッタ及び、レシーバの IP アドレスと端末 ID を 1 台ずつ設定するため、設定された端末 ID や IP アドレスを目印として端末本体にメモを貼ることができます。

ACM200 へ接続し設定すると以下、法則にてIPアドレスが割り振られます。

#### トランスミッタ IP アドレスの自動割り当てについて

ネットワーク上に接続されたトランスミッタを検知した順番に IP アドレスの割り当てが開始され最初に検知されたトランスミッタには 169.254.3.1 の IP アドレスが割り当てられます。次に検知されたトランスミッタには 169.254.3.2 の IP アドレスが割り当てられ、その後も連番にて割り当てられます。

169.254.3.x セグメントの IP アドレス(計 254 台)が全て割り当てられると、次のトランスミッタの IP アドレスは 169.254.4.1 として割り当てられます。IP アドレス 169.254.5.254 に達するまで連番にて割り当てられるため、ACM200 ウェブ GUI にて自動構成を行ったシステムでは、最大 762 台のトランスミッタを構成することが可能です。

#### レシーバ IP アドレスの自動割り当てについて

ネットワーク上に接続されたレシーバを検知した順番に IP アドレスの割り当てが開始され最初に検知されたレシーバには 169.254.6.1 の IP アドレスが割り当てられます。次に検知されたレシーバには 169.254.6.2 の IP アドレスが割り当てられ、その後も連番にて割り当てられます。169.254.6.x セグメントの IP アドレス(計 254 台)が全て割り当てられると、次のレシーバの IP アドレスは 169.254.7.1 として割り当てられます。IP アドレス 169.254.8.254 に達するまで連番にて割り当てられるため、ACM200 ウェブ GUI にて自動構成を行ったシステムでは、最大 762 台のレシーバを構成することが可能です。



マルチキャストシステムへの端末登録を開始するには、'Start Scan' を選択しネットワークスイッチに接続されたトランスミッタとレシーバを検索してください。

**BLUSTREAM** Project Setup

We are now ready to add Multicast devices to your project. There are two ways you can have devices added to your system.

Method 1 - Connect all Transmitter and Receiver devices to the video network switch before you begin your scan. This method is the quickest and simplest setup procedure however once complete you will need to identify your devices as this will auto-assign product IDs.

Method 2 - Connect each Transmitter and Receiver device to the network one by one. The setup wizard will configure the products as the next input or output device meaning that you are in control of the IDs that are allocated to each product.

When you are ready to add devices to your project, click the "Start Scan" button. The devices, as they are found, will show up in the list below. Once all of your transmitters and receivers are shown in the list (check the total numbers of RX and TX found and configured) you can click the "Stop Scan" button. When you are ready to proceed to the next step, select the "Next" button.

**Stop Scan**

Transmitters			Receivers		
ID	Name	IP Address	ID	Name	IP Address
1	TX1	169.254.3.1	1	RX1	169.254.6.1

**Back**

**Next**

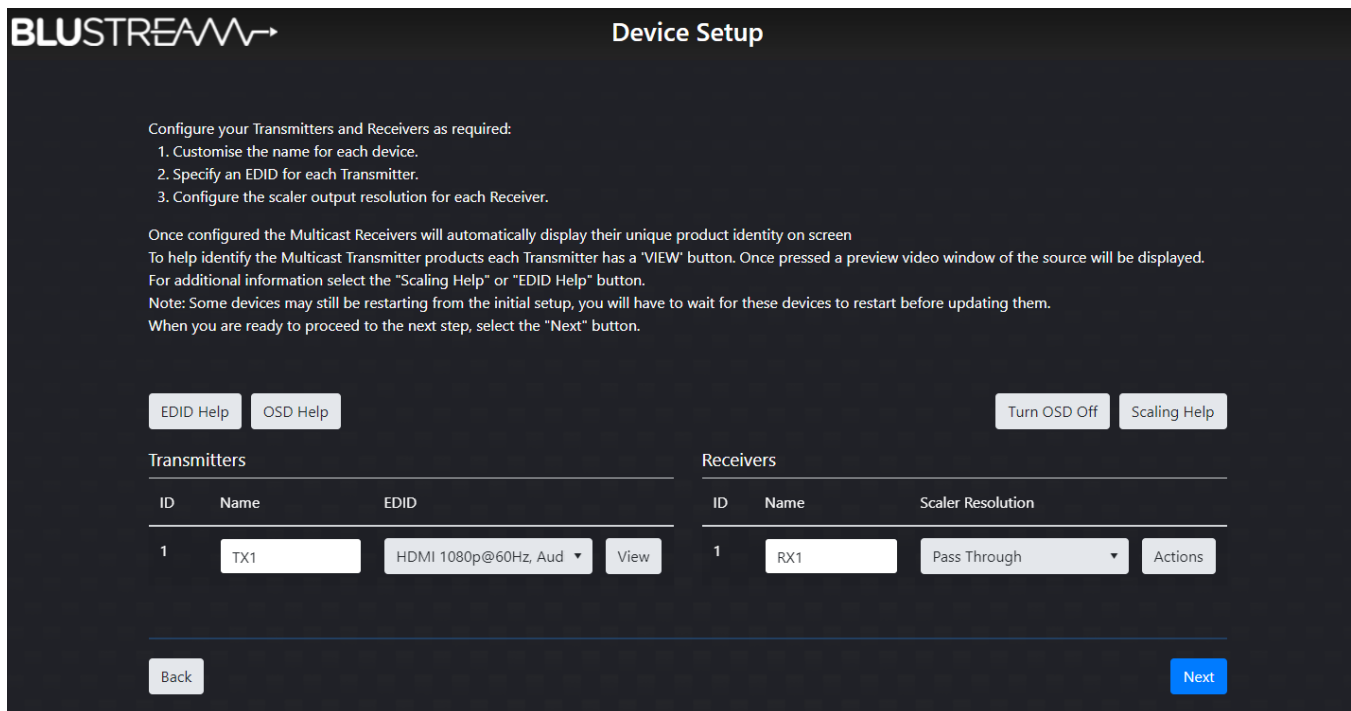
新しいマルチキャストデバイスが検出されると、「Transmitters(トランスミッタ)」または、「Recievers(レシーバ)」の列に検出された端末が表示されます。

※この時点で、トランスミッタまたは、レシーバに付属されたステッカーに登録情報を記入し端末本体へ貼りつけて管理することをお勧めします。

すべての端末の検出と設定が完了したら、'Stop Scan' または 'Next' を選択し、次に手順に移ります。

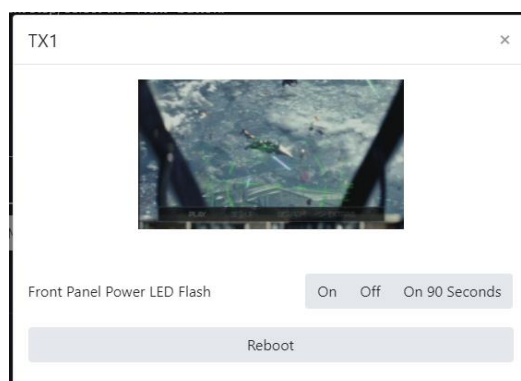
デバイス設定(Device Setup)画面では、トランスミッタとレシーバに名称を付けることができます。必要に応じて、各端末の EDID やスケーラ設定を行うことができます。

EDID、スケーラの設定に関する設定方法は、本書「P.24 [トランスミッタ設定](#)」、「P.27 [レシーバ設定](#)」をご参照ください。



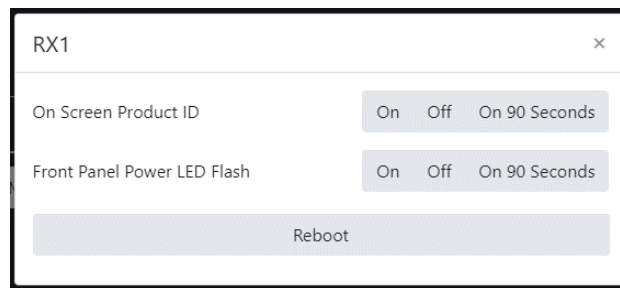
Device Set-up ページの特徴は以下の通りです。

1. **Name(デバイス名)** - 検出された端末には自動でデフォルト名称が割り当てられます。(例:TX 1、RX1 など)。デバイス名欄に選択し、デバイスの名称を変更できます(半角英数、符号最大 16 文字まで)。
2. **EDID** - トランスミッタ(ソース)の EDID を固定します。(ソース機器が出力可能な最大値(解像度・音声フォーマット)を選択することをお勧めします。)EDID 設定の一覧は「P.24 [トランスミッタ設定](#)」をご参照ください。
3. **View** - ‘View’を選択すると、該当トランスミッタが受信しているプレビュー(映像受信コンテンツ)が表示されます。



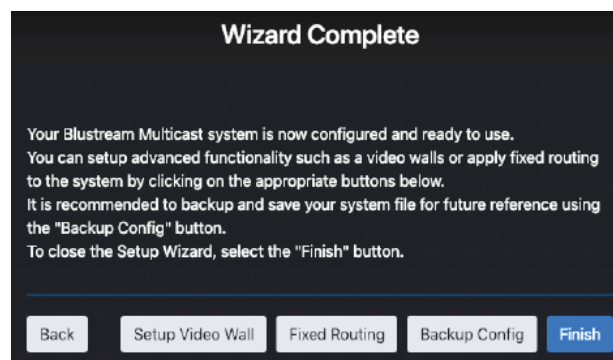
プレビュー画面では、トランスミッタの前面パネルの LED 動作モード(オン/オフ/90 秒オン)の設定や、本体の強制再起動も可能です。

4. **Scaler Resolution(スケーラ設定)** - レシーバのビデオスケーラ機能を有効にして出力解像度を調整します。アップスケールとダウンスケールの両方に対応しています。スケーラ設定一覧は「P.27 [レシーバ設定](#)」をご参照ください。
5. **Action(動作)**- ‘Refresh’ を選択すると、表示情報が更新されます。



コントロール設定画面では、レシーバに接続されたディスプレイ上にプロダクト(デバイス)IDを表示することができます。また、レシーバ前面パネルのLED動作モード(オン/オフ/90秒間オン)の設定と本体の強制再起動が行えます。

6. **Next** - ‘Next’ を選択し、新規プロジェクトセットアップ完了(Wizard Complete)画面を表示してください。



**Back** - デバイス設定画面に戻ります。

**Setup Video Wall** - 使用しません。

**Fixed Routing** - ビデオ、オーディオ、IR、シリアル、USB、CEC 固定ルーティング設定画面を表示します。

**Backup Config** - 現在のプロジェクトセットアップ情報を PC に.json ファイルとして保存します。

**Finish** - 新規プロジェクトセットアップ完了し、「Drag & Drop Control」画面に移ります。

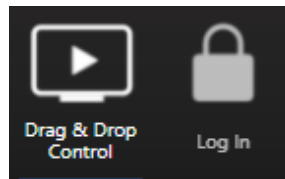
**ご注意:**

AMC200 のウェブ GUI メニュー項目はマルチキャスト UHD IP200UHDシリーズと共通のため、下記の一部メニュー項目が、コントラクターFHD IP50HDシリーズでは使用できませんのでご注意ください。

- OSD表示(Turn OSD On/Off)
- ビデオウォール設定(Setup Video Wall)

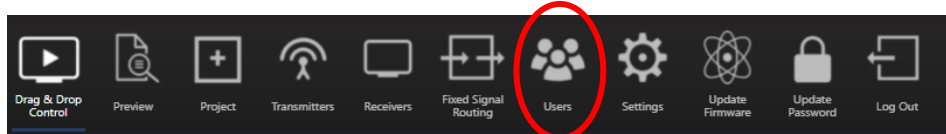
## ウェブ GUI メニュー説明

システムへログインしていない状態(ゲストモード)では表示メニューは制限され下記のメニューのみ表示されます。



1. **‘Drag & Drop Control’** - 各トランスミッタがソースから受信している映像コンテンツと各レシーバがトランスミッタから受信しているコンテンツ画像を表示してドラッグ・アンド・ドロップでレシーバでの再生コンテンツを切り替えます。
2. **‘Log In’** - ウェブ GUI 詳細設定画面にログインします。

管理者(admin)でログインすると、すべてのメニューが表示されます。



### ご注意:

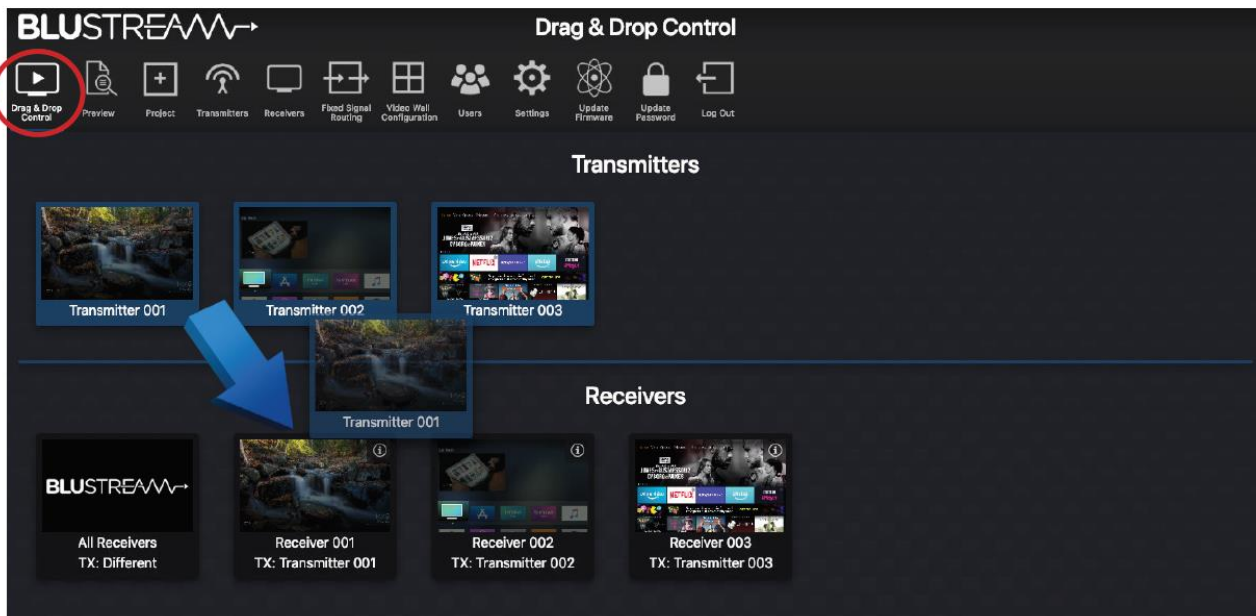
注意: 管理者ログインユーザー名とログインパスワードをエンドユーザーに預けることはお勧めできません。

1. **‘Drag & Drop Control’** - 各トランスミッタがソースから受信している映像コンテンツと各レシーバがトランスミッタから受信しているコンテンツ画像を表示してドラッグ・アンド・ドロップでレシーバでの再生コンテンツを切り替えます。
2. **‘Preview’** - トランスミッタ及び、レシーバのプレビュー選択画面を表示します。
3. **‘Project’** - プロジェクトの設定変更(トランスミッタ、レシーバの追加及び、画面 OSD 表示オン/オフ)、またはプロジェクトを破棄してプロジェクトを新規作成します。
4. **‘Transmitters’** - 各トランスミッタの各種情報(ID、デバイス名、IP アドレス、MAC アドレス、ファームウェアバージョン、オンライン/オフライン、EDID、オーディオソース)の表示、及び各種設定(Actions)を行います。各種設定(Actions)項目は「P.25 [トランスミッタ - 各種設定\(Actions\)](#)」をご参照ください。
5. **‘Receivers’** - 各レシーバの各種情報(ID、デバイス名、IP アドレス、MAC アドレス、ファームウェアバージョン、オンライン/オフライン、ソース、スケーラ設定、及び各種設定(Actions)を行います。各種設定(Actions)項目は「P.28 [レシーバ - 各種設定\(Actions\)](#)」をご参照ください。
6. **‘Fixed Signal Routing’** - 各レシーバにルーティング固定するビデオ、オーディオ、IR、シリアル、USB、CEC を設定します。
7. **‘User’** - 詳細設定画面へのログインアカウント新規作成、権限変更、削除を行います。
8. **‘Setting’** - ACM200 の一般設定、ネットワーク設定を行います。詳細は「P.34 [ACM200 本体設定](#)」を参照してください。
9. **‘Update Firmware’** - トランスミッタ、レシーバ、ACM200 本体のファームウェアバージョンの確認、アップデートを行います。詳細は「P.37 [ファームウェアアップデート](#)」をご参照ください。
10. **‘Update Password’** - 詳細設定画面へのログインパスワードを変更します。詳細は「P.39 [000](#)」をご参照ください。
11. **‘Log out’** - 詳細設定画面からログアウトします。

## Drag & Drop コントロール

素早くレシーバに伝送したいソース(トランスミッタ)を個別または、一斉割り当てすることができます。トランスミッタがソース機器から受信している映像とレシーバが受信している映像のキャプチャ静止画像が表示されます。このキャプチャ静止画像は数秒ごとに自動更新されます。

ご利用になられる PC、スマートフォン、タブレットによっては 1 画面に表示されるトランスミッタとレシーバの台数は異なります。左右方向にスクロールまたはスワイプして接続された端末をご確認ください。



### 操作方法

放映(伝送)したいソース(トランスミッタ)を選択して割り当てするレシーバ上にドラッグ・アンド・ドロップしてください。ドロップされたレシーバ画面はドラッグ・アンド・ドロップしたソース映像のキャプチャ静止画像に切り替わります。

Drag & Drop コントロールにて割り当てできるのはソース(トランスミッタ)の映像及び、音声のみとなります。他のコントロール信号などの割り当ては「Fixed Signal Routing」メニューで行います。

各トランスミッタ画面に「No Signal(信号無し)」が表示された場合、該当するトランスミッタに映像が入力されているか、または、トランスミッタの EDID 設定が正しいかご確認ください。各レシーバ画面に「No Signal(信号無し)」と表示される場合、該当するレシーバはネットワークスイッチへ正しく接続され電源が供給されていることを確認してください。

すべてのレシーバで同じソースを一斉割り当てしたい場合は、画面左下にある「All Receivers」画面へ放映したいソース(トランスミッタ)をドロップしてください。

各レシーバに割り当てられたソースは、各レシーバ画面下に‘TX: Transmitter xxx’と表示されます。マルチキャストシステム内の各レシーバが異なるソースを受信している場合は‘All Receivers’画面下に‘TX: Different’と表示されます。

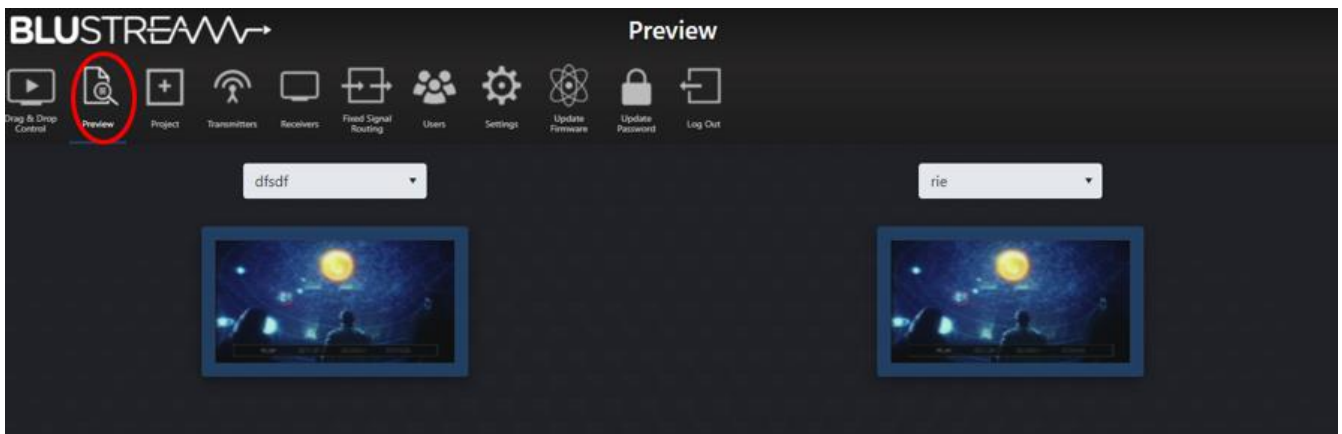
#### ご注意:

Drag & Drop コントロール画面は、詳細設定画面にアクセスする権限の無いゲストユーザやアクセス制限されたユーザーもアクセスが可能です。アクセス制限されたユーザーアカウントでログインするとアクセスが許可されたトランスミッタ及び、レシーバのみが表示されます。ユーザー設定と権限については、「P.32 [ログインアカウント設定](#)」をご参照ください。

## プレビュー

プレビュー(Preview)機能は、マルチキャストシステム内でトランスミッタがソースから受信しているコンテンツとレシーバがストリーミング受信しているコンテンツを静止画として表示します。

各端末のコンテンツ受信状況を確認する上で役立ちます。



## 操作方法

プルダウンボックスから確認したいトランスミッタまたは、レシーバを選択します。

トランスミッタとレシーバのプレビュー画面は、数秒ごとに自動更新されキャプチャ静止画像として表示されます。

## プロジェクト設定

「プロジェクト(Project)」設定メニューでは、プロジェクトで構成されたトランスミッタとレシーバの情報確認やトランスミッタやレシーバの新規追加・削除が行えます。

また、設定したプロジェクトは設定ファイルとしてプロジェクトのエクスポート(Export Project)から保存が可能です。設定保存していた再度利用するには、プロジェクトのインポート(Import Project)から設定ファイルを読み込ませてください(ファイル拡張子:\*.json)。

The screenshot shows the BLUStream Project management interface. The 'Project' menu item is highlighted with a red circle. The interface displays the following sections:

- Current Devices:** Includes buttons for 'Toggle OSD', 'Export Project', 'Import Project', and 'Clear Project'. It contains two tables:
 

Transmitters				Receivers			
ID	Name	IP Address	Status	ID	Name	IP Address	Status
1	TX1	169.254.3.1	Online	1	RX1	169.254.6.1	Online
- Unassigned Devices:** Includes buttons for 'Assign New Devices', 'Continuously Scan & Auto Assign', and 'Scan Once'. It contains two tables:
 

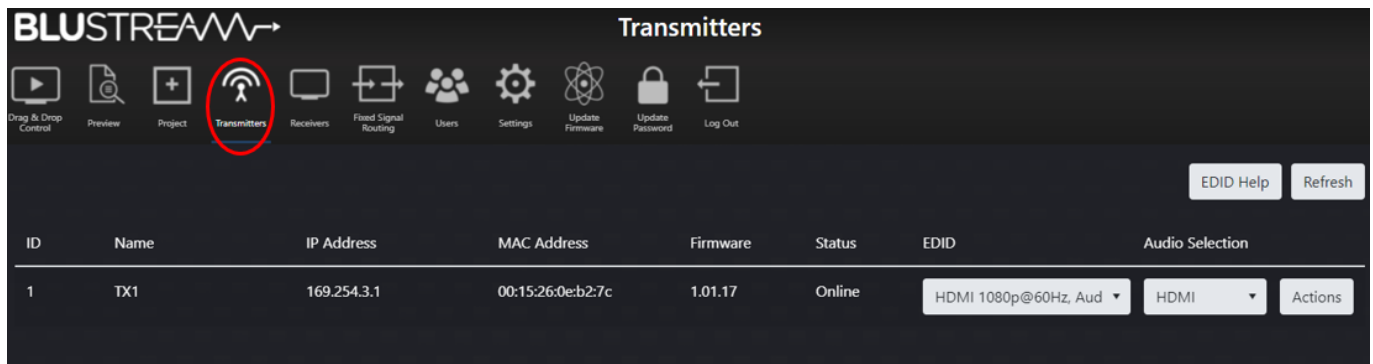
Unassigned Transmitters		Unassigned Receivers	
IP Address	MAC Address	IP Address	MAC Address
There are no unassigned transmitters.		There are no unassigned receivers.	

### 項目説明

1. Toggle OSD: 使用しません。
2. Export Project: プロジェクト内容を設定ファイル(\*.json ファイル)として PC に保存します。
3. Import Project: 設定ファイルを読み込みプロジェクトへ反映します。他の環境にて作成したプロジェクトを読み込ませ 1 つのシステムとして統合することも可能です。
4. Clear Project: プロジェクトを削除します。
5. Continuously Scan & Auto Assign: ネットワークを継続的にスキャンし、接続された新しいマルチキャストデバイスを、次に利用可能な ID と IP アドレスに自動で割り当てます。ACM200 は、新しいマルチキャストデバイスが見つかるまでネットワークをスキャンし続けますが、このボタンを再度選択するとスキャンを停止します。新しい端末を 1 台だけ接続する場合は、「Scan Once」をご利用ください。
6. Scan Once: 新しいマルチキャストデバイスが接続されていないか、ネットワークを一度スキャンし、別画面で新しく検知された端末を手動で割り当てるか、次の利用可能な ID と IP アドレスに自動割り当てするかを選択します。

## トランスミッタ設定

「トランスミッタ(Transmitters)」設定画面では、各トランスミッタの各種情報(ID、デバイス名、IP アドレス、MAC アドレス、ファームウェアバージョン、オンライン/オフライン、EDID、オーディオソース)の表示、及び、各種設定(Actions)を行います。各種設定(Actions)での設定内容は「P.25 [トランスミッタ - 各種設定\(Actions\)](#)」をご参照ください。



### 項目説明

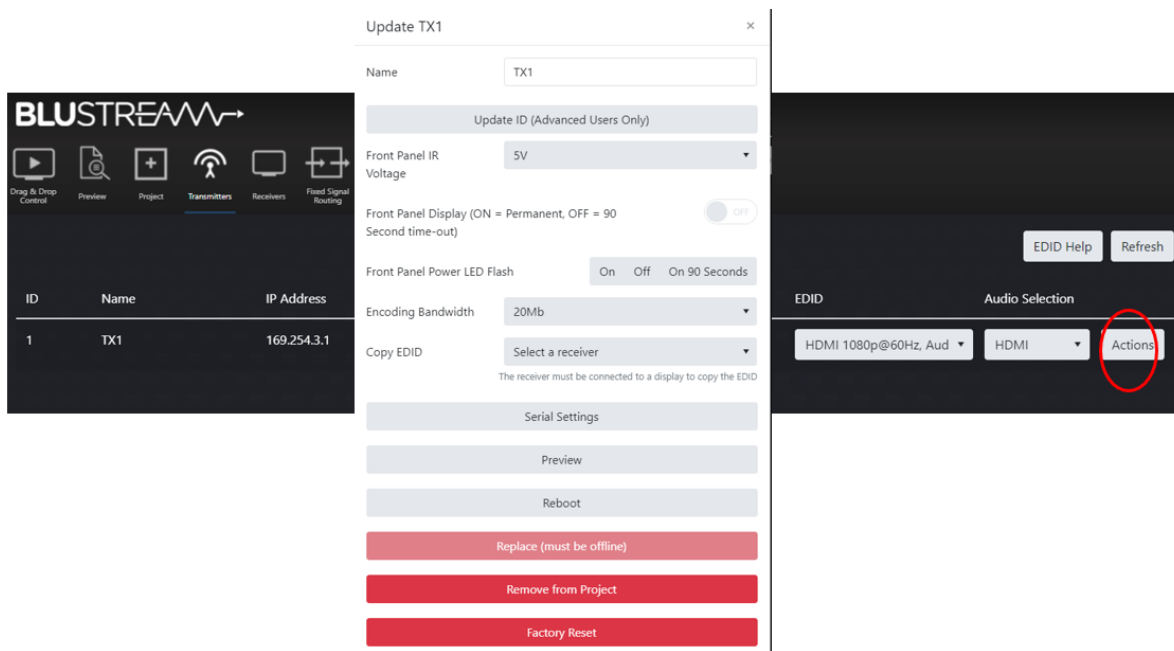
1. Refresh: システム内のトランスミッタに関するすべての最新情報を更新表示します。
2. ID / Input: トランスミッタ ID 番号を表示します。サードパーティコントロールシステムで Blustream マルチキャストシステムを制御する場合は、該当トランスミッタ ID 番号を利用し制御します。
3. Name: トランスミッタのデバイス名を表示します。‘Actions’ 設定メニューで変更可能です。
4. IP Address: トランスミッタの IP アドレスを表示します。
5. MAC Address: トランスミッタの MAC アドレスを表示します。
6. Firmware: トランスミッタ本体のファームウェアバージョンを表示します。ファームウェアのアップデートについては「P.37 [ファームウェアアップデート](#)」をご参照ください。
7. Status: トランスミッタのオンライン/オフラインステータスを表示します。‘Offline’ (オフライン)が表示された時は、該当トランスミッタのネットワークスイッチへの接続や電源をご確認ください。
8. EDID: トランスミッタ EDID を設定します。ソースデバイスの出力映像・音声のフォーマットに合わせ設定します。トランスミッタの EDID 設定項目は下記の通りです。初期設定:Default EDID
  - HDMI 1080p@60Hz, Audio 2CH PCM(default) - デフォルト EDID 設定です。
  - HDMI 720p@60Hz, Audio 2CH PCM
  - DVI 1280x1024@60Hz, Audio None(音声なし)
  - DVI 1920x1080@60Hz, Audio None(音声なし)
  - DVI 1920x1200@60Hz, Audio None(音声なし)
  - HDMI 1920x1200@60Hz, Audio 2CH PCM
  - User EDID 1
  - User EDID 2

※’ User EDID 1’ 及び’ User EDID 2’ のアップデートは ‘Update Firmware’ メニューで行います。
9. Audio Selection: トランスミッタが伝送する音声モードを HDMI(HDMI 音声)/Analogue (アナログオーディオ入力)から選択します。初期設定:HDMI。
10. Actions: トランスミッタの詳細設定メニュー画面を表示します。設定詳細項目は「P.23 トランスミッタ設定-Actions」をご参照ください。



## トランスミッタ設定 – Actions

「トランスミッタ設定」画面内、該当トランスミッタ右側の‘Actions’を選択すると詳細設定画面が表示されます。



### 項目説明

1. Name: トランスミッタのデバイス名を設定します。(入力可能文字: 16 文字半角英数符号)
2. Update ID: トランスミッタのデバイス名 ID を設定します。初期設定では、トランスミッタに割り当てられている IP アドレスの下の 3 桁と同じ数字に設定されます。
3. Front Panel IR Voltage: トランスミッタの IR 信号動作電圧(5V/12V)を設定します。

#### ご注意:

Blustream 社の赤外線製品はすべて 5V であり、他のメーカーの赤外線ソリューションとの互換性がありません。Blustream 5V IR レシーバ(IRR)または Blustream IR コントロールケーブル (3.5mm ステレオモノラル 12V-5V IR 変換ケーブル)(IR-CAB)を使用する必要があります。

4. Front Panel Display(On/Off): トランスミッタ前面パネルにある LED ディスプレイ表示をオン(常時)/オフ(90 秒表示後自動オフ)設定します。初期設定: オフ(90 秒表示後自動オフ)
5. Front Panel Power LED Flash(On/Off/On 90 Seconds): トランスミッタの前面パネルにある LED ステータスライトをオン(常時)/オフ(常時)/90 秒表示後自動オフ モードから選択します。初期設定: 90 秒表示後自動オフモード
6. Encoding Bandwidth: トランスミッタのストリーミングビットレート(20Mb/16Mb/8Mb/4Mb/2Mb/1Mb)を設定します。初期設定: 20Mb
6. Copy EDID: マルチキャストシステムに接続されているレシーバから EDID をコピーします。操作方法については、「P.25 [トランスミッタ詳細設定\(Actions\)](#)」の EDID コピーをご参照ください。
7. Serial Setting: シリアル通信のゲストモードのオン/オフ設定、及びボーレート、データビット、パリティ、ストップビットの設定を行います。
8. Preview: トランスミッタのプレビュー画面(静止画)を表示します。
9. Reboot: トランスミッタを強制再起動します。
10. Replace: オフライン状態のトランスミッタを新しい端末と交換する際に使用します。

#### ご注意:

古いトランスミッタはオフライン状態で交換する必要があります。また、新しいトランスミッタの IP は出荷時設定(169.254.100.254)にした状態で交換する必要があります。

11. Remove from Project: 該当トランスミッタをプロジェクトから削除します。
12. Factory Reset: トランスミッタの設定を出荷時設定(IP:169. 254. 100. 254)にリセットします。

### ウェブ GUI トランスミッタ設定(Actions) EDID コピー

EDID(Extended Display Identification Data)は、ディスプレイとソースの間で通信されるデータ構造です。このデータはディスプレイデバイスでサポートされているオーディオおよびビデオの解像度などを確認するためそれらの情報がソースに転送されます。この情報を元に、ソースは接続されたディスプレイに最適なオーディオとビデオの解像度を選別し信号を出力します。

通常のマトリックスシステムにて、複数のディスプレイやソースを導入すると、各種ディスプレイやソース機器の仕様の違いなどからEDIDハンドシェイクに問題が発生することがあります。

マルチキャストシステムでは、ソースに接続するトランスミッタとディスプレイに接続するレシーバ側で送受信する映像・音声フォーマットを事前に決定することで、EDID ハンドシェイクの時間を短縮し、より迅速で信頼性の高いスイッチングを実現します。

EDIDコピー機能は、ディスプレイ機器EDIDを取得し、ACM200内に保存する機能です。この保存したEDIDはトランスミッタEDID選択時に呼び出すことができ、画面が正しく表示されていないソースデバイスに適用することができます。

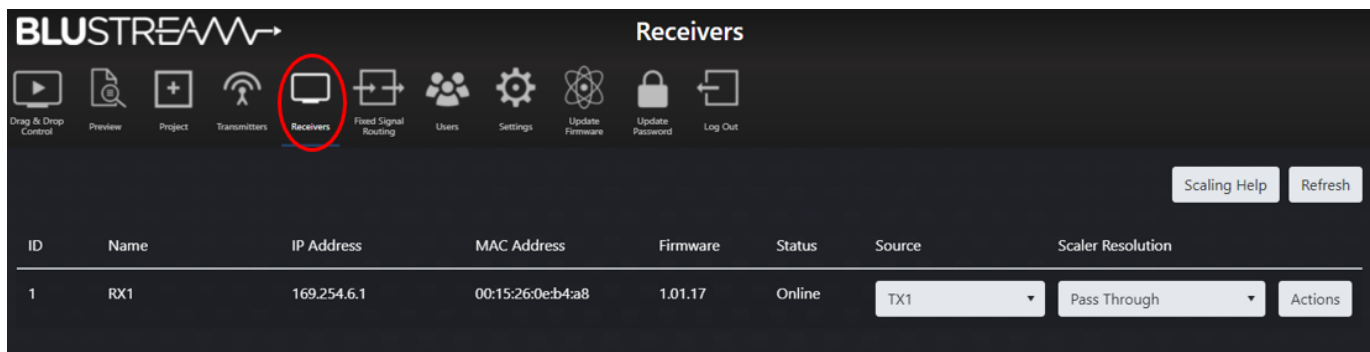
カスタムEDIDを持つトランスミッタから出力映像音声を表示する場合は、システム内のディスプレイに正しく表示されるか確認することをお勧めします。

#### ご注意:

EDIDコピーする場合は、該当するトランスミッタは1台のディスプレイ機器(レシーバ)に接続されていることをご確認ください。

## レシーバ設定

「レシーバ(Receivers)」設定画面で各レシーバの各種情報(ID、デバイス名、IP アドレス、MAC アドレス、ファームウェアバージョン、オンライン/オフライン、ソース、スケーラ設定、及び各種設定(Actions)を行います。各種設定(Actions)項目は「P.28 [レシーバ - 設定\(Actions\)](#)」を参照してください。

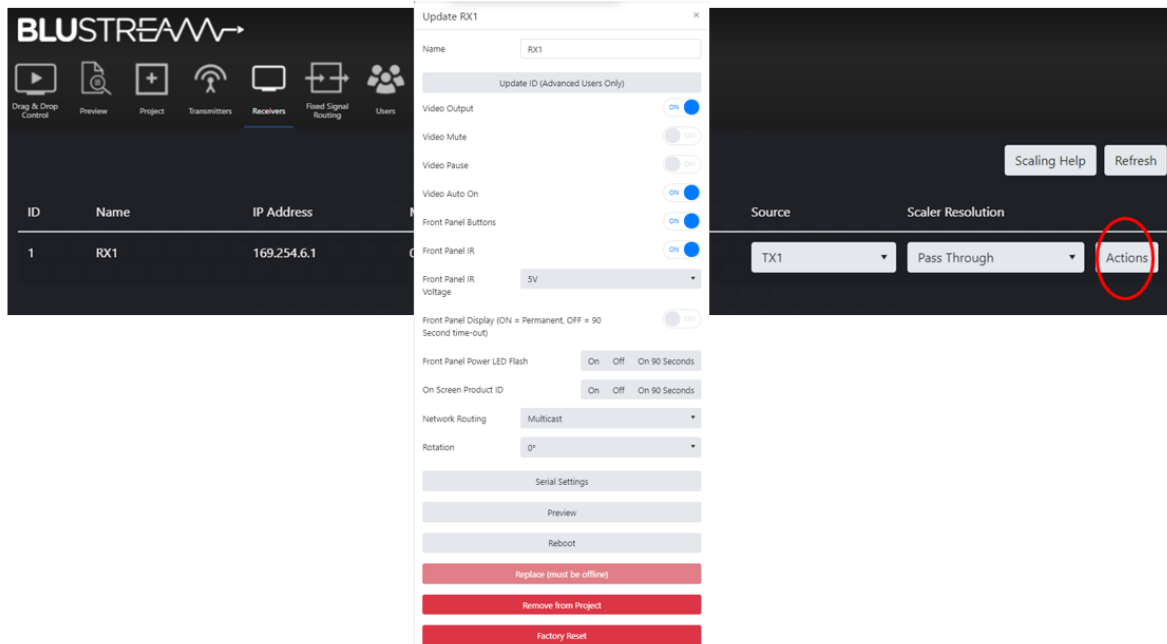


### 項目説明

1. Refresh: システム内のレシーバに関するすべての最新情報を更新表示します。
2. レシーバ ID 番号を表示します。サードパーティコントロールシステムで Blustream マルチキャストシステムを制御する場合は、該当レシーバの ID 番号を利用し制御します。
3. Name: レシーバのデバイス名を表示します。‘Actions’ 設定メニューで変更可能です。
4. IP Address: レシーバの IP アドレスを表示します。
5. MAC Address: レシーバの MAC アドレスを表示します。
6. Firmware: レシーバ本体のファームウェアバージョンを表示します。ファームウェアのアップデートについては「P.37 [ファームウェアのアップデート](#)」をご参照ください。
7. Status: レシーバのオンライン/オフラインステータスを表示します。‘Offline’ (オフライン)が表示された場合は、該当レシーバのネットワークスイッチへの接続や電源を確認してください。
8. Source: レシーバが受信しているソース(トランスミッタデバイス名)を設定します。
9. Scaler Resolution: レシーバに内蔵されているビデオスケーラで、出力解像度を調整します。ダウンスケーリング、アップスケーリングの両方に対応しています。スケーラ設定は以下から選択可能です。初期設定: Pass Through
  - Pass Thought - パススルー (ソースが出力しているのと同じ解像度を出力します)
  - 1080p@60Hz
  - 1080p@30Hz
  - 1080p@24Hz
  - 720p@50Hz
  - 480p@60Hz
  - 800x600@60Hz
  - 1280x800@60Hz
  - 1366x768@60Hz
  - 1600x1200@60Hz
  - 1920x1200@60Hz
  - 1080p@50Hz
  - 1080p@25Hz
  - 720p@60Hz
  - 576p@60Hz
  - 640x480@60Hz
  - 1024x768@60Hz
  - 1280x1024@60Hz
  - 1440x900@60Hz
  - 1680x1050@60Hz
  -
10. Actions: レシーバの詳細設定画面を表示します。設定詳細項目は「P.28 [レシーバ詳細設定\(Actions\)](#)」を参照してください。

## レシーバ設定 - Actions

「レシーバ設定」画面内、該当レシーバ右側にある‘Actions’を選択すると詳細設定画面が表示されます。



### 項目説明

1. Name: レシーバのデバイス名を設定します。(入力可能文字: 16 文字半角英数符号)
2. Update ID: レシーバのデバイス名 ID を設定します。初期設定では、レシーバに割り当てられている IP アドレスの下 3 桁と同じ数字に設定されます。
3. Video Output: HDMI 出力信号のオンオフを設定します。オフにすると信号を出力しません。  
初期設定: オン
4. Video Mute: 黒画面出力の設定をします。オンにすると HDMI 出力から黒画面を出力します。  
初期設定: オフ
5. Video Pause: 使用しません。
6. Video Auto On: 使用しません。
7. Front Panel Buttons(On/Off): 該当レシーバ前面パネルにあるボタンの操作を有効(On)/無効(Off)に設定します。初期設定: 有効(On)
8. Front Panel IR(On/Off): 該当レシーバの IR 送受信を有効(On)/無効(Off)に設定します。  
初期設定: 有効(On)
9. Front Panel Display(On/90 Seconds): トランスミッタの前面パネルにある LED ディスプレイ表示をオン(常時)/90 秒表示後自動オフ設定します。初期設定: オフ(90 秒表示後自動オフ)
10. Front Panel Power LED Flash(On/Off/On 90 Seconds): レシーバの前面パネルにある LED ステータスライトをオン(常時)/オフ(常時)/90 秒間表示後自動オフ モードから選択します。初期設定: 90 秒表示後自動オフモード
11. On Screen Product ID(On/Off/On 90 Seconds): デバイスIDをディスプレイにオーバーレイ表示します。初期設定: オフ
12. Network Routing:
13. Rotation: レシーバからの出力映像を時計回り0°/90°/180°/270°回転の表示に設定します。
14. Serial Setting: シリアル通信のゲストモードのオン/オフ設定、及びボーレート、データビット、パリティ、ストップビットの設定を行います。
15. Preview: レシーバのライブ映像(静止画)をポップアップ表示します。

16. Reboot: レシーバを強制的にリブートさせます。  
17. Replace: オフライン状態のレシーバを交換する際に使用します。

**ご注意:**

古いレシーバはオフライン状態で交換する必要があります。また、新しいレシーバのIPは出荷時設定(169. 254. 100. 254)にした状態で交換する必要があります。

18. Remove from Project: 該当レシーバをこのプロジェクトから削除します。  
19. Factory Reset: レシーバの設定を出荷時設定(IP:169. 254. 100. 254)にリセットします。

## 固定信号ルート設定

「固定信号ルート(Fixed Signal Routing)」設定画面でソース(トランスミッタ)から伝送される下記の信号を特定のレシーバに固定することができます。

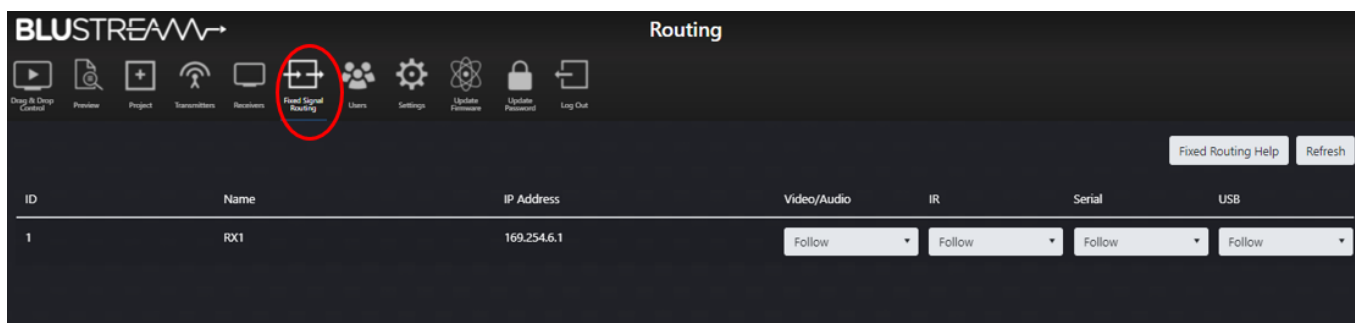
- 映像(Video)/音声(Audio)
- IR 送受信(IR)
- RS-232 シリアル(Serial)
- USB/KVM(USB)

これにより、各信号はマルチキャスト製品間で固定され、ビデオスイッチングの影響を受けないようにすることができます。

サードパーティコントロールシステムや同一メーカーIR リモコンからの制御を拡張でき、IR または RS-232 による同じフィールドでの製品を制御することに役立ちます。

### ご注意:

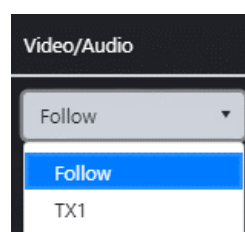
IR と RS-232 を除いて、ルーティングはレシーバからトランスミッタにのみ固定できます。信号のルーティングは一方方向にしか設定できませんが、2 つの製品間では双方向の通信が可能です。



初期設定では、各信号は 'Follow' に設定されておりトランスミッタからレシーバへのルーティング設定内容に沿った形ですべての信号はルーティング送受信されます。各種信号のプルダウンメニューを使用してルーティング先を選択します。

IR スwitching制御機能(IR パススルーではない)とレシーバの前面パネルの CH ボタンによる操作はデフォルトで有効設定になっていますが、これらの設定を変更するには、「P.28 [Receivers 設定-Actions](#)」設定画面から行って下さい。

信号の固定ルーティング設定を解除するには、該当する信号を 'Follow' に設定してください。サードパーティの制御システムでの映像、音声、IR、RS-232 のルーティングコマンドについては、「P.43 [RS-232 及び Telnet コマンド](#)」をご参照ください。



## オーディオ信号ルーティング

通常の運用では、HDMI 信号に含まれるエンベデッドオーディオは、関連する映像信号とともにトランスミッタからレシーバに伝送されますが、ACM200 を利用することで、HDMI の音声信号を Blustream マルチキャストシステム内の任意のレシーバに独立してルーティングすることができます。

固定オーディオルーティング機能では、あるソースのオーディオトラックを別のトランスミッタの映像信号にエンベッドしルーティングすることが可能です。

## IR 信号ルーティング

固定 IR ルーティング機能では、2 台のマルチキャストデバイス間の IR 信号送受信を固定することができます。IR 信号は、任意のレシーバからトランスミッタ、またはトランスミッタからトランスミッタ間でのみルーティング設定が可能です。IR 信号ルーティングを利用することでサードパーティ制御ソリューション (ELAN、Control4、RTi、Savant など) から IR 信号を送信し、Blustream マルチキャストシステムを活用した IR 信号拡張としてご利用いただけます。

また、IR 信号をシステム内のディスプレイや他の製品に送受信することもできます。



## 接続

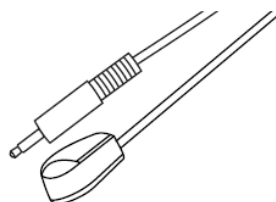
サードパーティコントロールシステムの IR 信号送受信、または Blustream IR 信号送受信機は、トランスミッタまたはレシーバの IR 入力端子/IR 出力端子に接続します。

### ご注意:

他社製 IR 送受信端末と接続する場合は、必ず、Blustream 社製 5V IRR レシーバまたは、IRCAD (3.5mm ステレオ to モノラル 12V to 5V IR 変換ケーブル) をご利用ください。Blustream 社製品では 5V 電源ラインを採用しており他社製はご利用いただけません。



Blustream 5V IR エミッタをトランスミッタまたはレシーバの IR 出力端子に接続してください。Blustream IR エミッタ (IRE1) は、端末 IR 送信制御用として設計されています。



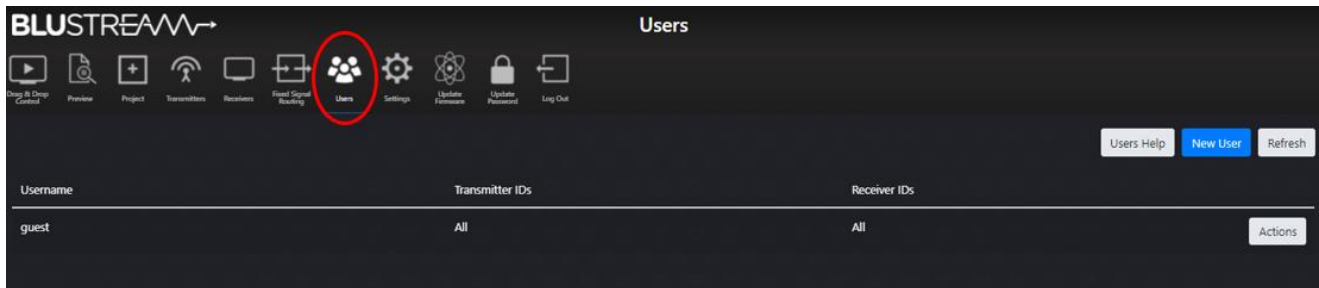
## ログインアカウント設定

ウェブ GUI では、ローカルユーザーアカウントに管理者権限を設定できます。アカウント種類は下記の通りです。

‘admin’ - すべての設定メニューにアクセスできます。

‘guest’ - マトリックス切り替え(Drag&Drop Control)メニューのみにアクセスでき、許可されているトランスミッタとレシーバのみが表示されます。(初期設定: すべてのトランスミッタとレシーバが表示されます。)

新規作成ユーザーアカウント - マトリックス切り替え(Drag&Drop Control)メニューのみにアクセスでき、許可されているトランスミッタとレシーバのみ表示されます。



### ユーザーアカウントの新規作成方法

1. ‘New User’ を選択します。
2. ‘User Name’ (ユーザー名)、『Password’ (パスワード)、『Confirm Password’ (パスワード確認)を入力して‘Create’を選択するとアカウントが作成されてユーザーアカウント一覧に表示されます。

### ユーザーアカウントの設定またはログインパスワードの変更方法

1. 概要するユーザーアカウントの‘Actions’ボタンを選択すると、変更メニューが表示されます。

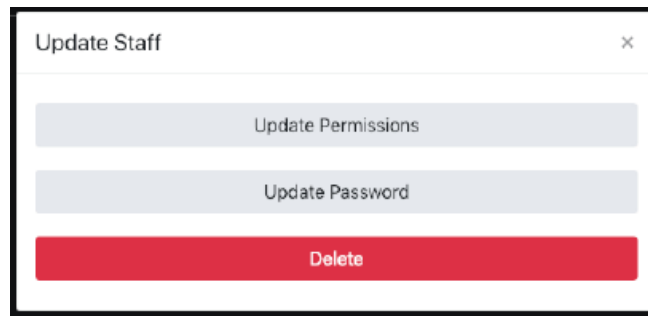
Username	Transmitter IDs	Receiver IDs	
guest	All	All	Actions
Staff	All	All	Actions

#### ご注意:

‘guest’ユーザーアカウントとは、ログインをせずウェブ GUI を使用することを指します。ログインをしないゲストアカウントではマトリックス切り替え(Drag&Drop Control)メニューのみにアクセスでき、全ての端末に対して操作が可能です。アカウント別にアクセスし操作可能な端末を制限したい場合は、‘guest’ユーザーアカウントを削除してください。



## ログインアカウント設定変更



## 項目説明

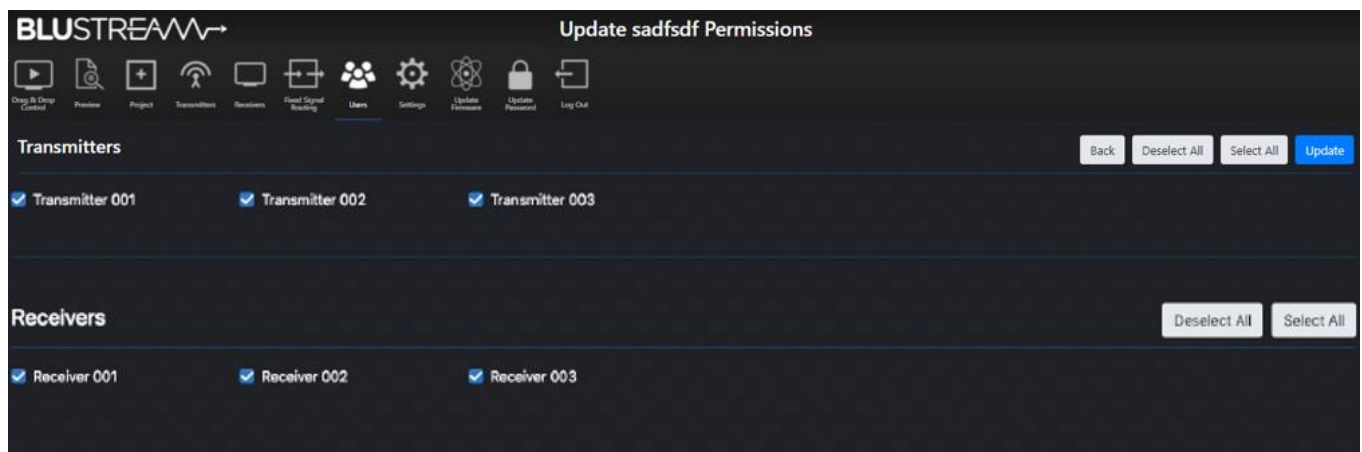
‘Update Permissions’ - ユーザーアカウントがアクセスできるトランスミッタとレシーバを設定します。

‘Update Password’ - ユーザーアカウントのログインパスワードを変更します。

‘Delete’ - ユーザーアカウントを作成します(削除すると、復元できませんので、ご注意ください)。

## アクセスできるトランスミッタとレシーバの割り当て方法

ユーザーアカウントの‘Actions’ → ‘Update Permissions’ 順に選択すると、下記の設定画面が表示されます。



アクセス権限を許可したいトランスミッタとレシーバにチェックを入れてください。

‘Back’ - ユーザーアカウント一覧に戻ります。

‘Deselect All’ - すべてのトランスミッタ/レシーバをチェック外します。

‘Select All’ - すべてのトランスミッタ/レシーバをチェック入れます。

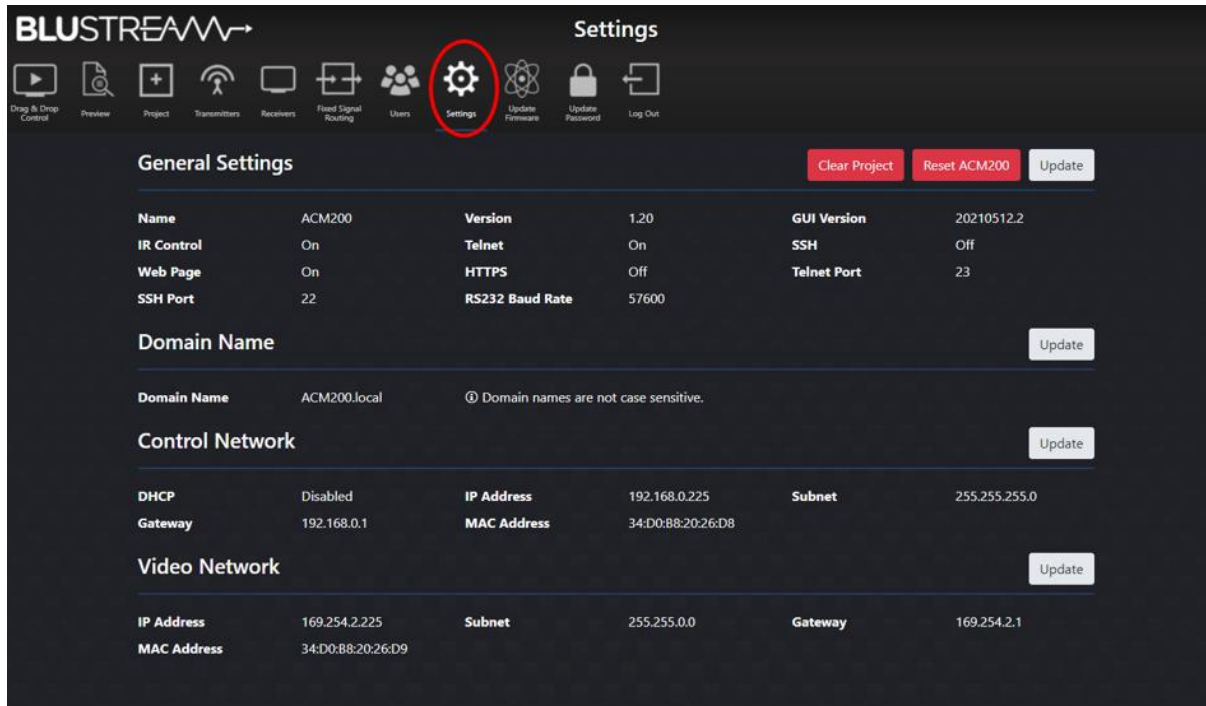
‘Update’ - 設定を確定します。

## ご注意:

ユーザーがビデオウォールのスイッチングコントロールを行うためには、関連するすべてのレシーバへのアクセス権限が必要となります。関連するレシーバ全てへのアクセス権限が付与されていない場合、該当ビデオウォールはビデオウォールコントロールページに表示されません。

## ACM200 本体設定

一般設定、ネットワーク設定は‘Setting’ 設定メニューで行います。



### 設定項目説明

‘General Setting’ - 本体設定を行います。

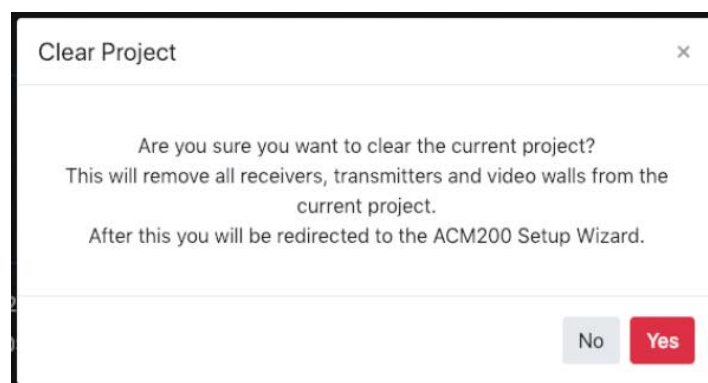
‘Domain Name’ - ウェブ GUIドメインを設定します。

‘Control Network’ - コントロール LAN 端子設定を変更します。

‘Video Network’ - ビデオネットワークポート設定を変更します。

### 一般設定 ‘General Setting’

‘Clear project’ - 保存されているプロジェクト設定ファイルを削除し、プロジェクトに関するすべての設定が削除されます。



#### ご注意:

プロジェクトを削除すると、プロジェクトに関するすべての設定が削除されます。削除をする前に、プロジェクト設定ファイルを PC に保存してください。(保存方法は「P.23 [プロジェクト設定](#)」をご参照ください。)

プロジェクトを削除すると、プロジェクトの新規作成画面(‘New Project Setup Wizard’)が表示されます。

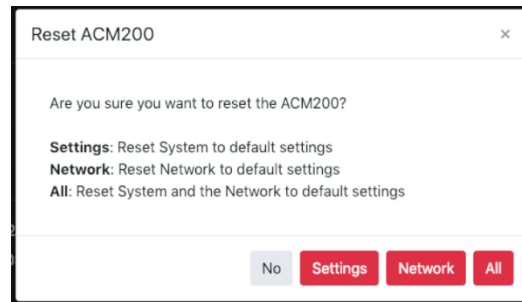
## ACM200 一般設定

### ACM200リセット(‘Reset’)メニュー説明

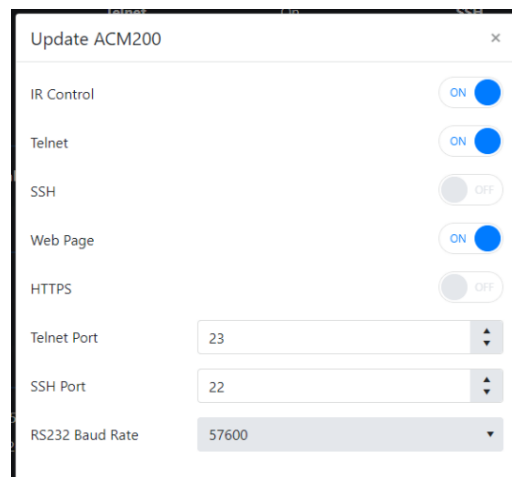
‘Settings’ - 保存されているプロジェクト設定ファイルを削除し、プロジェクトに関するすべての設定が削除されます。

‘Network’ - 保存されているプロジェクト設定ファイルを削除し、プロジェクトに関するネットワーク設定が削除されます。

‘All’ - 保存されているすべての設定が削除され、工場出荷時状態に戻ります。



‘General Setting’ の ‘Update’ を選択すると、下記画面が表示されます。



### 項目説明

‘IR Control’ - IR 制御のオン/オフを設定します。初期設定:オン

‘Telnet’ - Telnet 制御のオン/オフを設定します。初期設定:オン

‘SSH’ - SSH 制御のオン/オフを設定します。初期設定:オン

‘Web Page’ - WEB GUI でのアクセスのオン(有効)/オフ(無効)を設定します。初期設定:オン  
※オフ(無効)にすると WEB GUI が使用できなくなります。元に戻す場合は ACM200 をリセットしてください。

‘HTTPS’ - ACM200 の HTTPS 通信のオン/オフを設定します。初期設定:オン

‘Telnet Port’ - Telnet 通信のポートを設定します。初期設定:23

‘SSH Port’ - SSH 通信のポートを設定します。初期設定:22

‘RS232 Baud Rate’ - ACM200 の RS-232 制御のボーレートを設定します。初期設定:576

00

‘Control Network’ の ‘Update’ をクリックすると、下記の項目を設定できます。

Update ACM200 Control Network	
DHCP	<input checked="" type="checkbox"/>
IP Address	192.168.0.225
Subnet	255.255.255.0
Gateway	192.168.0.1
<input type="button" value="Update"/>	

#### 項目説明

‘DHCP’ - コントロール LAN 端子の DHCP のオン/オフを設定します。

‘IP Address’ - コントロール LAN 端子の IP アドレスを設定します。

‘Subnet’ - コントロール LAN 端子のサブネットマスクを設定します。

‘Gateway’ - コントロール LAN 端子のゲートウェイを設定します。

‘Video Network’ の ‘Update’ をクリックすると、下記の項目を設定できます。

Update ACM200 Video Network	
IP Address	169.254.2.225
Subnet	255.255.0.0
Gateway	169.254.2.1

#### 項目説明

‘IP Address’ - ビデオネットワークポートの IP アドレスを設定します。

‘Subnet’ - ビデオネットワークポートのサブネットマスクを設定します。

‘Gateway’ - ビデオネットワークポートのゲートウェイを設定します。

## ファームウェアアップデート

ファームウェアアップデート‘Update Firmware’設定メニューでは、ACM200 本体、及び、マルチキャストネットワークに接続されオンライン状態のトランスミッタとレシーバのファームウェアアップデートが可能です。ACM200 では、複数台のトランスミッタまたは、レシーバのファームウェアアップデートを同時に行うことができます。※トランスミッタとレシーバの同時アップデートはできません。トランスミッタ、及び、レシーバの最新ファームウェアは以下弊社ホームページから入手が可能です。

ダウンロード URL: [www.ad-techno.com/support/download/software/](http://www.ad-techno.com/support/download/software/)

**Update Firmware**

Update Firmware

Upload User EDID 1   Upload User EDID 2   Show Progress   Upload ACM200 Firmware   Upload TX OR RX Firmware

Transmitters			Receivers		
ID	Name	Firmware	ID	Name	Firmware
1	TX1	1.01.17	1	RX1	1.01.17

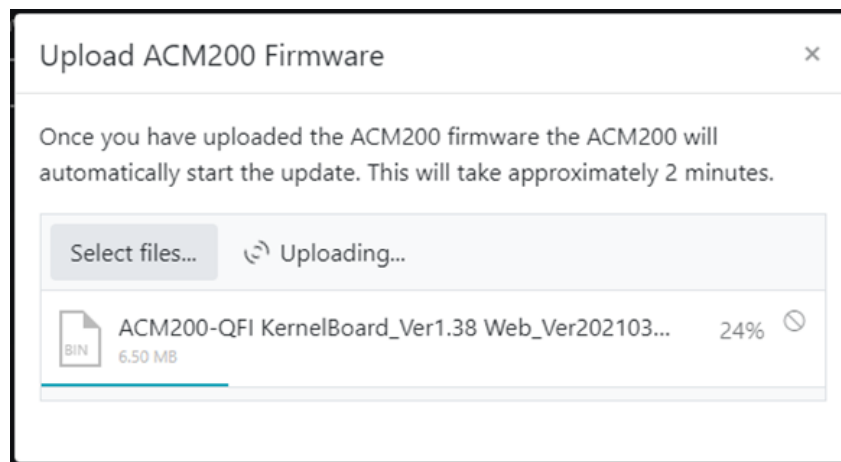
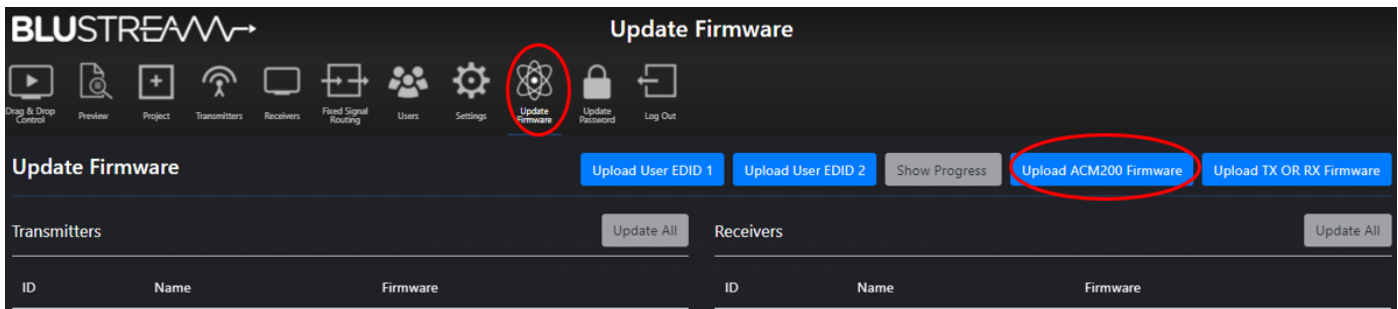
### ご注意:

ダウンロードしたファームウェアアップデートファイルのファイル名を変更しないでください。

ファームウェアアップデートを開始する前に必ず、全てのトランスミッタ、レシーバ間のデータストリーミングサービスを停止してください。データストリーミングを行ったままアップデート処理を行うとネットワーク上の不要なパケット通信が原因でファームウェアの送信パケットが失われ機器の故障を招く恐れがあります。

## ACM200 本体ファームウェアのアップデート方法

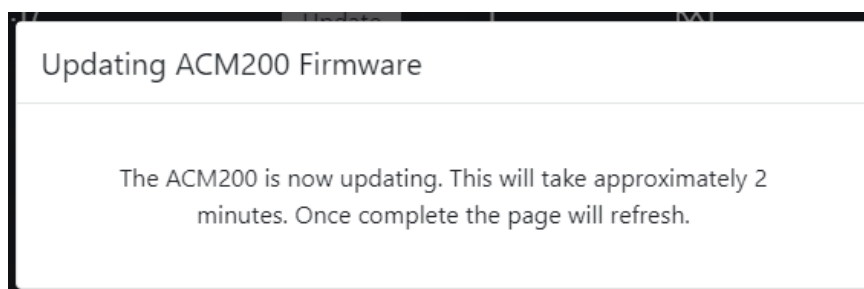
1. ACM200 用ファームウェアアップデートファイルを弊社ホームページから PC へダウンロードします。
2. ‘Upload ACM200 Firmware’ から解凍したファイル(.bin)を選択し、アップデートファイルを ACM200 内にアップロードします。



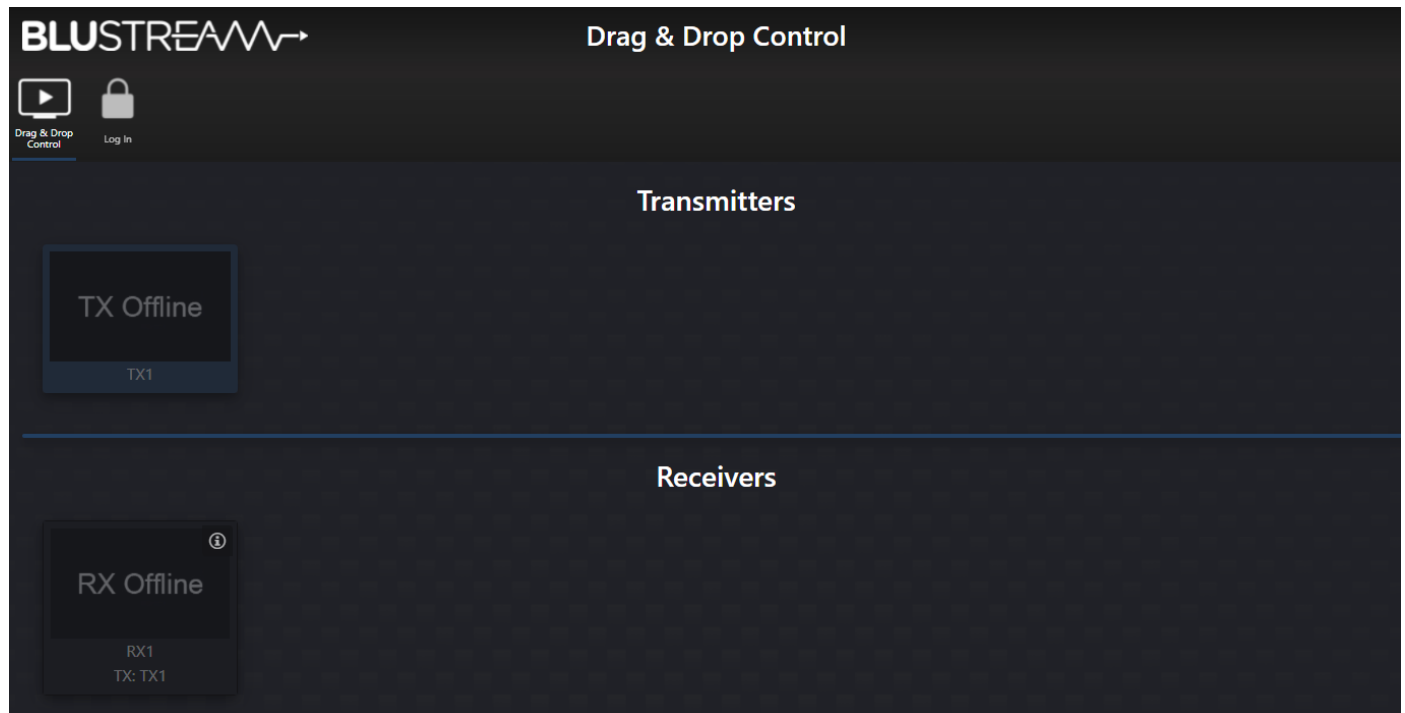
### 重要

ACM200 本体、トランスミッタ及び、レシーバのファームウェアアップデート中にウェブ GUI を閉じたり、ACM200 と PC 間の接続切断やトランスミッタ、レシーバの電源を切らないでください。故障の原因となります。

3. ACM200 内にファームウェアファイルのアップロードが完了すると、ウェブ GUI 画面右下に下記メッセージが表示されますので、数分間そのままお待ちください。



4. ウェブ GUI のログイン画面が表示されたら、ファームウェアアップデート完了です。

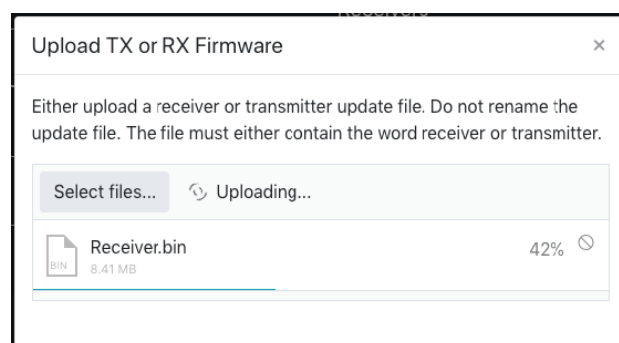


### 重要

初回アップデート後、ACM200 本体のリセットボタンを押して、必ず工場出荷状態にしてからご利用ください(ウェブ GUI でログインできないことがございます)。

### トランスミッタ、またはレシーバ本体ファームウェアのアップデート方法

1. トランスミッタまたは、レシーバ用最新ファームウェアファイルを弊社ホームページからダウンロードして PC に保存してください。
2. ‘Upload TX OR RX Firmware’ を選択して PC に保存したファイル(\*.bin)を選択してください。選択したファームウェアは、ACM200 内にアップロードされます。



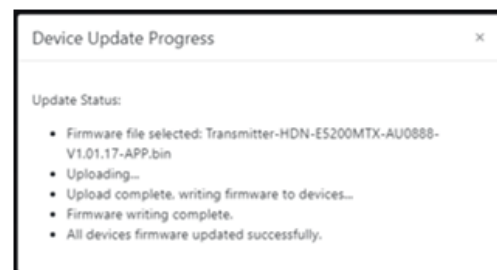
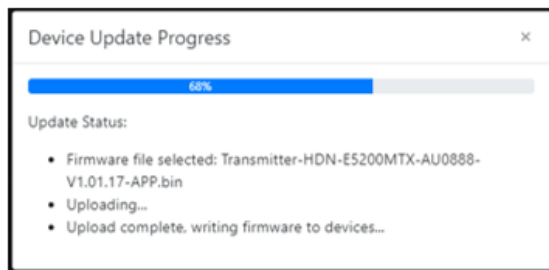
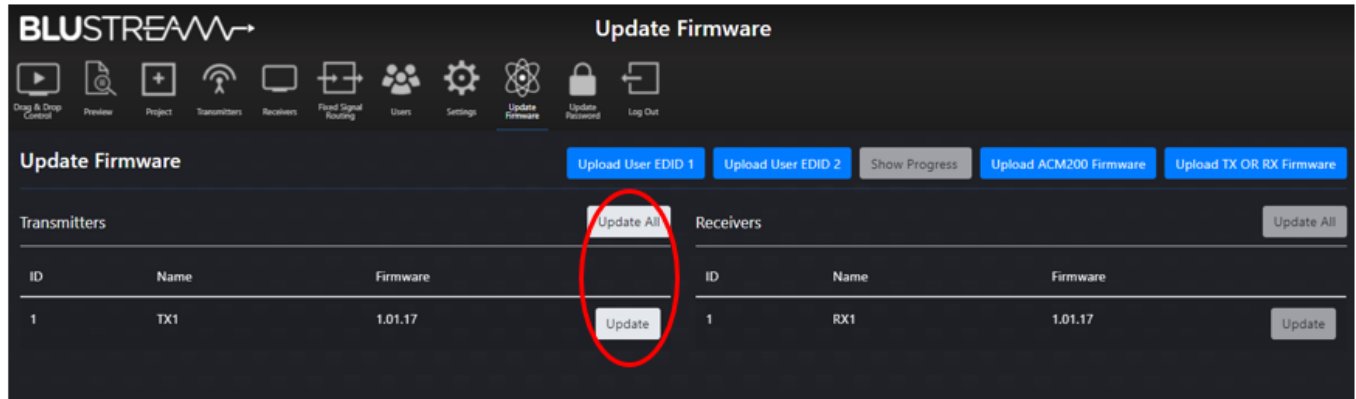
### 重要

ACM200 本体、トランスミッタ及び、レシーバのファームウェアアップデート中にウェブ GUI を閉じたり、ACM200 と PC 間の接続切断やトランスミッタ、レシーバの電源を切らないでください。故障の原因となります。

ACM200 内にトランスミッタまたは、レシーバ用ファームウェアファイルのアップロードが完了すると、ウェブ GUI 画面右下に下記メッセージが表示されます。

✔ The device firmware (Receiver.bin) has been uploaded, please select a device to start the update.

3. アップデートを実行したいトランスミッタまたは、レシーバの右側にある 'Update' を選択すると、ファームウェアのアップデートが開始されます。



アップデート中に下記メッセージが表示されます。

'ready to upgrade 169.254.3.1 file Transmitter' - トランスミッタへのファイルアップロード準備が完了しました。

'uploading...' - トランスミッタにファイルをアップロードしています。

'upload done, wait device write file' - トランスミッタへのファイルアップロードが完了し、デバイスにファイルの上書きを始めます。

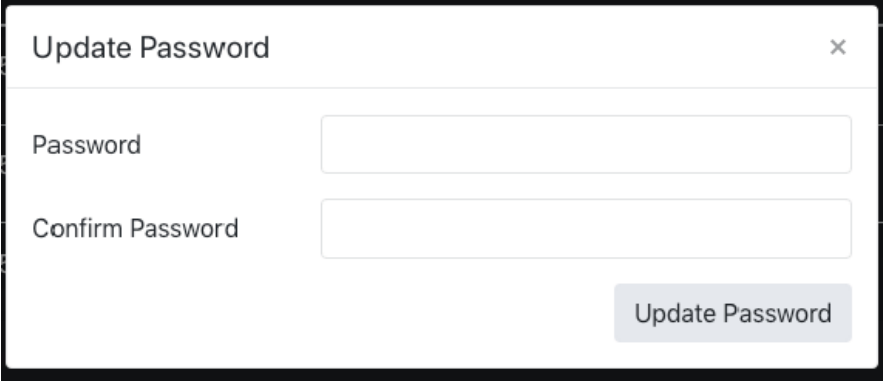
'device write done' - トランスミッタへのファイル書き込みが完了しました。

'upgrade 169.254.x.x success' - '169.254.x.x' トランスミッタのファームウェアアップデートが完了しました。



## 管理者用ログインパスワードの変更

管理者(admin)用パスワード変更メニュー‘Update Password’を選択すると、ログインパスワード変更の画面が表示されます。新しいパスワードを2回入力(確認を含め)して‘Update Password’を選択すると、新しいパスワードに更新されます。



The image shows a dialog box titled "Update Password" with a close button (X) in the top right corner. Inside the dialog, there are two text input fields. The first is labeled "Password" and the second is labeled "Confirm Password". Below these fields is a button labeled "Update Password".

### 重要

パスワードの復元はできません。管理者パスワードを忘れたり、紛失したりした場合は、ACM200 をファクトリーリセット(工場出荷状態にリセット)してください。

## RS-232 通信ルーティング

マルチキャスト製品は、双方向の RS-232 パススルー機能を搭載し、シリアルコマンドを使用して製品を制御することができます。マルチキャスト製品を使用した RS-232 の配信には、以下の利用方法があります。

### ‘Type 1 - Fixed Routing’ (固定ルーティング)

システム内の 1 台または、複数のトランスミッタと 1 台または、複数のレシーバをルーティングし 1 対多の RS-232 コマンドを送受信することが可能です。1 箇所から複数のデバイスをシリアル制御する場合にご利用いただけます。本設定は、ウェブ GUI 内の ‘Fixed Routing’ 設定メニューより行います。

### ‘Type 2 - Guest Mode’ (ゲストモード)

PC やコマンド送信プログラム(機器)から Telnet/IP 通信経由にてコマンドを ACM200 へ送信することで RS-232 コマンドに変換しビデオ配信ネットワーク上のトランスミッタとレシーバの RS-232 ポートと PC やコマンド送信プログラム(機器)間とでコマンド送受信が可能です。

本設定を有効にするには下記 2 つの方法があります。

1. ACM200 のウェブ GUI コンソールで設定する方法。
2. コマンドでの設定方法。コマンド: **IN/OUT xxx SG ON**

### サードパーティ制御システムの RS-232 ゲストモード接続方法

ACM200 に送信されるシリアルコマンドは、ゲストモードが有効になっているすべてのデバイスに送信されます。システム内の複数のデバイスでゲストモードを使用する場合は、必要に応じてゲストモードをオン/オフ設定してください。

1. ACM200 とトランスミッタ、レシーバ間のゲストモード通信を有効にするため、下記のコマンドを IP または RS-232 経由で送信してください。

**INxxxGUEST**            トランスミッタと ACM200 間のゲストモード通信を有効にします。

**OUTxxxGUEST**        レシーバと ACM200 間のゲストモード通信を有効にします。

➤ xxxはトランスミッタまたはレシーバのデバイスID番号です。

(設定例: “IN010GUEST” コマンドは、トランスミッタ 010 と ACM200 間の IP/シリアル双方向通信を有効にします。)

2. 接続が確立されると、ACM200 から送信されたコマンドは、接続されたトランスミッタまたはレシーバに送信され、その逆も同様です。

3. 接続を終了するには、エスケープコマンド“**0x02**”(16 進数)を送信してください。Telnet を使用している場合は、キーボードから“Ctrl+B”キーを押して接続を終了してください。

## Blustream IR コマンド

Blustream マルチキャストシステムは、最大80台のトランスミッタと最大80台のレシーバのソースをIR信号での制御が可能です。マルチキャストシステムのIP信号コマンドの詳細「マルチキャストIRコマンドガイド」は弊社ホームページより入手可能です。

マルチキャストIRコマンドガイド:

<https://www.ad-techno.com/support/download/manual/avoip/>

## シリアル(RS-232)通信及び Telnet コマンド

Blustream マルチキャストシステムは、シリアル通信及び、TCP/IP 通信経由で制御が可能です。ACM200 を使用したマルチキャストシステムで利用可能なすべてのシリアルコマンドを以下のページに記します。

### 良くある失敗例

キャリッジリターン - ご利用になられるターミナルソフトウェアによっては、キャリッジリターン(改行)が必要、不要場合があります。一部のターミナルソフトウェアでは、トークン<CR>を使用してキャリッジリターンを実行するなど、ご利用になられるプログラムによって仕様が異なります。

- ・スペース(空白) - ACM200 はスペース(空白)を認識せず動作します。  
例: '1' は '01'、'001'、'0001' は同じとみなします。
  - 文字列のフォーマット: 'OUT0010FR002'
  - サードパーティ制御システムのコマンド例: 'OUT{スペース(空白)}001{スペース(空白)}FR002'
- ・ボーレートまたはその他のシリアル通信プロトコルの設定間違い

## ACM200 のコマンドと応答

### ご注意:

トランスミッタ(yyy)及びレシーバ(xxx)の最大台数はともに 762 台です。

- レシーバ(出力) = xxx
- トランスミッタ (入力) = yyy
- スケーラ出力 = rr
- EDID 入力設定 = zz
- ボーレート = br
- GPIO 入力/出力ポート = gg

ACM200 の API コマンドのリストは、「ACM200 アドバンスドコントロールモジュール API コマンド」からもご確認いただけます。

## レシーバ(出力)コマンド

コマンド説明	送信コマンド	応答
出力設定: xxx のソースを yyy にする(すべての信号)	OUTxxxFRyyy	Set output xxx From INPUT:yyy
映像出力の固定: xxx のソースを yyy に固定する	OUTxxxVFRyyy	Set output video xxx From INPUT:yyy
音声出力の固定: xxx のソースを yyy に固定する	OUTxxxAFRyyy	Set output audio xxx From INPUT:yyy
IR 信号出力の固定: xxx のソースを yyy に固定する	OUTxxxRFRyyy	Set output IR xxx From INPUT:yyy
RS-232 出力の固定: xxx のソースを yyy に固定する	OUTxxxSFRyyy	Set output RS232xxx From INPUT:yyy
USB 出力の固定: xxx のソースを yyy に固定する	OUTxxxUFRyyy	Set output usb xxx From INPUT:yyy
出力設定: xxx のファストスイッチング機能をオン/オフ設定する	OUTxxxFASTON/OFF	Set output xxx fast switching mode ON/OFF
レシーバを再起動させる	OUTxxxROTATEtt	Set output xxx reboot and apply all the new config
レシーバ出力映像を回転させる tt=0: 回転しない tt=90: 時計回り方法 90°回転 tt=180: 時計回り方法 180°回転 tt=270: 時計回り方法 270°回転	OUTxxxROTATEtt	output xxx rotate tt degree
出力映像のアスペクト比率の変更(アスペクト比率を変更または維持する)	OUTxxxSTRETCHON/OFF	Set output xxx stretch ON/OFF
レシーバの HDCP 管理モード	OUTxxxDBGON/OFF	Set output xxx debug mode ON/OFF

次ページへ続く

## 前ページの続き

コマンド説明	コマンド	応答
スケーラ出力解像度を設定する 0: バイパス 3: 1080p@50 4: 1080p@60 5: 1080i@50 6: 1080i@60 7: 720p@60 8: 720p@50 9: 1280x1024@60 10: 1024x768@60 11: 1360x768@60 12: 1440x900@60 13: 1680x1050@60	OUTxxxRESrr	Set output xxx resolution to bypass (=0) Set output xxx resolution to 2160p@30(=1) など
指定のレシーバxxxのステータスを確認する	OUTxxxSTATUS	「P.49 <a href="#">ステータス情報応答例</a> 」をご参照ください。

## トランスミッタ(入力)コマンド

コマンド説明	コマンド	応答
入力デバイス(トランスミッタ)の音声をHDMI オーディオに設定する	INyyyAUDORG	Set Audio source:xxx to audio select hdmi
入力デバイス(トランスミッタ)の音声をアナログ入力音声に設定する	INyyyAUDANA	Set Audio source:xxx audio select analog
入力デバイス(トランスミッタ)を再起動させる	INyyyRB	Set output xxx reboot and apply all the new config
出力デバイス(レシーバ)xxx の EDID を入力デバイス(トランスミッタ)yyyにコピーする	EDIDyyyCPxxx	Copy outputxxx edid to input yyy
入力デバイス(トランスミッタ)yyy の EDID を zz が該当する EDID に設定する ※ZZ に割り当てる数字は次の表を参照してください。	EDIDyyyDFzz	Set input yyy edid with default edid zz
指定のトランスミッタyyyのステータスを確認する	INyyySTATUS	「P.49 <a href="#">ステータス情報応答例</a> 」をご参照ください。

zzに割り当て数字	EDID
00	HDMI 1080p@60Hz, Audio 2CH PCM
01	HDMI 1080p@60Hz, Audio 5.1CH PCM / DTS / DOLBY
02	HDMI 1080p@60Hz, Audio 7.1CH PCM / DTS / DOLBY / HD
03	HDMI 1080i@60Hz, Audio 2CH PCM
04	1080i@60Hz, Audio 5.1CH PCM / DTS / DOLBY
05	1080i@60Hz, Audio 7.1CH PCM / DTS / DOLBY / HD
06	1080p@60Hz/3D, Audio 2CH PCM
07	1080p@60Hz/3D, Audio 5.1CH PCM / DTS / DOLBY
08	1080p@60Hz/3D, Audio 7.1CH PCM / DTS / DOLBY / HD
09	HDMI 4K@30Hz 4:4:4, Audio 2CH PCM
10	HDMI 4K@30Hz 4:4:4, Audio 5.1CH DTS / DOLBY
11	HDMI 4K@30Hz 4:4:4, Audio 7.1CH DTS / DOLBY / HD
12	DVI 1280x1024@60Hz, Audio None(音声なし)
13	DVI 1920x1080@60Hz, Audio None(音声なし)
14	DVI 1920x1200@60Hz, Audio None(音声なし)
15	HDMI 4K@30Hz 4:4:4, Audio 7.1CH(初期設定値)
16	HDMI 4K@60Hz 4:2:0, Audio 2CH PCM
17	HDMI 4K@60Hz 4:2:0, Audio 5.1CH DTS / DOLBY
18	HDMI 4K@60Hz 4:2:0, Audio 7.1CH DTS / DOLBY / HD

## ACM200 汎用コマンド

コマンド説明	コマンド	応答
ACM200 用すべてのコマンドを印刷する	HELP	(‘HELP’「ACM200 用 API コマンド コントロールFHDファームエア専用 v1.0」を参照してください)
IR 制御ポートをオン/オフに設定する	IRON/OFF	Set IR ON/OFF
レシーバのシリアル通信ゲストモードをオン/オフに設定する (該当コマンドはレシーバのシリアル通信をゲストモードに設定しているだけ、引き続き下記のコマンドでパラメータを設定する必要があります。 br=0: 300 br=1: 600 br=3: 1200) br=4: 4800 br=5: 9500 br=6: 19200 br=7: 38400 br=8: 57600 br=9: 115200 bit= データビット + パリティ + ストップビット 例:8n1 データビット=[5...8]、パリティ=[n o e]、ストップビット=[1...2])	OUTxxxSGON/OFF[br][bit]	Set serial guest mode config done
トランスミッタのシリアル通信をゲストモードに設定する (該当コマンドはトランスミッタのシリアル通信をゲストモードに設定しているだけ、引き続きパラメータを設定する必要があります。パラメータは上の欄を参照してください)	INxxxSGON/OFF[br][bit]	Set serial guest mode config done

次ページへ続く

## 前ページの続き

コマンド説明	コマンド	応答
ゲストモードのシリアル通信で ooo を出力する	OUT ooo GUEST	(ゲストモードでは、応答は返ってきません)
ゲストモードのシリアル通信で ooo を入力する	IN ooo GUEST	(ゲストモードでは、応答は返ってきません)
ゲストモードのシリアル通信を終了する	CLOSEACMGUEST	[Success] Exit guest
IO ポートを入力または出力ポートに設定する gg=0: すべてのポートを選択 gg=01...04: 指定のポート(01...04)を選択する	GPIOGgDIRIN/OUT	Set GPIO gg as input/output port
IO ポート low(0)または high(1)レベルに設定する	GPIOGgSET0/1	
現在の IO ポート入力レベル情報を取得する	GPIOGgGET	Get GPIO gg real input level 0/1
IO ポートのステータス情報を取得する	GPIOGgSTATUS	
システムステータス情報を取得する	STATUS	
コマンドエラーの時	-	unkown param. ('HELP'を参照してください) Output xxx does not exist(該当レシーバはありません) Input yyy does not exist(該当トランスミッタはありません) Output xxx is offline(該当レシーバはオフラインです) Input yyy is offline(該当トランスミッタはオフラインです) Param range error(パラメータエラー)



## ステータス情報応答例

## コマンド: STATUS

ACM200 が接続されているネットワーク概要が表示されます。

```
=====
IP Control Box ACM200 Status Info
FW Version: 1.14
```

```
Power IR  Baud
On  On  57600
In  EDID IP      NET/Sig
001 DF009 169.254.003.001 On /On
002 DF016 169.254.003.002 On /On
```

```
Out  FromIn IP      NET/HDMI Res Mode
001  001  169.254.006.001 On /Off  00 VW02
002  002  169.254.006.002 On /Off  00 VW02
```

```
LAN  DHCP IP      Gateway  SubnetMask
01_POE Off  169.254.002.225 169.254.002.001 255.255.000.000
02_CTRL Off  010.000.000.225 010.000.000.001 255.255.000.000
```

```
Telnet LAN01 MAC      LAN02 MAC
0023  34:D0:B8:20:4E:19  34:D0:B8:20:4E:1A
```

## コマンド: OUT xxx STATUS

コマンド“OUT xxx STATUS”に対し出力デバイス(レシーバ)のステータス情報が表示されます。(ファームウェアバージョン、動作モード、固定ルート、デバイス名など)

```
=====
IP Control Box ACM200 Output Info
FW Version: 1.14
```

```
Out Net  HPD Ver  Mode Res Rotate Name
001 On   Off  A7.3.0 VW  00  0  Receiver 001
```

```
Fast Fr Vid/Aud/IR_/Ser/USB/CEC  HDR MCas
On  001 001/004/000/000/002/000  On  On
```

```
CEC DBG Stretch IR  BTN LED  SGen/Br/Bit
On  On  Off  On On  3  Off /9/8n1
```

```
IM  MAC
Static 00:19:FA:00:59:3F
```

```
IP      GW      SM
169.254.006.001 169.254.006.001 255.255.000.000
```

**コマンド: IN xxx STATUS**

コマンド“IN xxx STATUS”に対し入力デバイス(トランスミッタ)のステータス情報が表示されます。  
(ファームウェアバージョン、音声選択、デバイス名など)

=====

IP Control Box ACM200 Input Info

FW Version: 1.14

In	Net	Sig	Ver	EDID	Aud	MCast	Name
001	On	On	A7.3.0	DF015	HDMI	On	Transmitter 001

CEC	LED	SGEn/Br/Bit
On	3	Off /9/8n1

IM	MAC
Static	00:19:FA:00:58:23

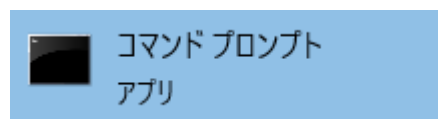
IP	GW	SM
169.254.003.001	169.254.003.001	255.255.000.000

=====

## トラブルシューティング

ACM200 を PC で制御する際に問題が発生した場合は、以下の手順で操作を試してください。  
(Windows10 の操作を例に説明します。)

1. PC を AMC200 のコントロール LAN 端子に直接 LAN ケーブルで接続します。
2. サードパーティ制御システムと ACM200 が通信する環境を再現するために、PC の IP アドレスを ACM200 のコントロールネットワークの IP アドレスと同じセグメントに設定してください。  
(「P.53 [PC の設定 - IP アドレス固定方法](#)」をご参照ください。)
3. コマンドプロンプト 'cmd.exe' を立ち上げます。



4. コマンドプロンプトに次のコマンドを入力します。“Telnet 192.168.0.225”  
下記の応答コードが表示される場合、ACM200 の接続が確立していることを示します。

```

=====
Welcome To ACM200 Terminal Control System
FW Version: 1.17
Type "HELP" For More Information
=====
ACM200>
  
```

### Telnet 通信エラー

下記のメッセージが表示される場合は、PC は ACM200 と接続が確立されていないことを示します。

'telnet is not recognized as an internal or external command, operable program or batch file'

Telnet 通信エラーになる場合、下記の対策方法を試してください。

#### コントロール LAN 端子の IP アドレスが検知できない場合

コントロール LAN 端子の IP アドレスを検知できない場合は、DHCP モデムルーター経由ではなく、ネットワークスイッチに直接接続してください。

#### コントロール LAN 端子の IP アドレスは検知できるが、Telnet 通信が行えない場合

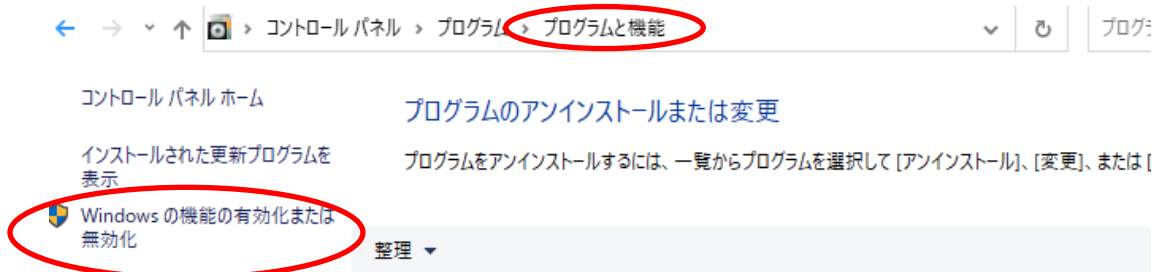
コントロール LAN 端子の IP アドレスを検知できない場合は、DHCP モデムルーター経由ではなく、ネットワークスイッチに直接接続してください。

上記の方法で Telnet 通信が確立されない場合は、PC の TFPT & Telnet を有効に設定してから、再度 Telnet 通信を試してください。(「P.52 [PC の設定 - TFPT & Telnet を有効にする](#)」をご参照ください。)

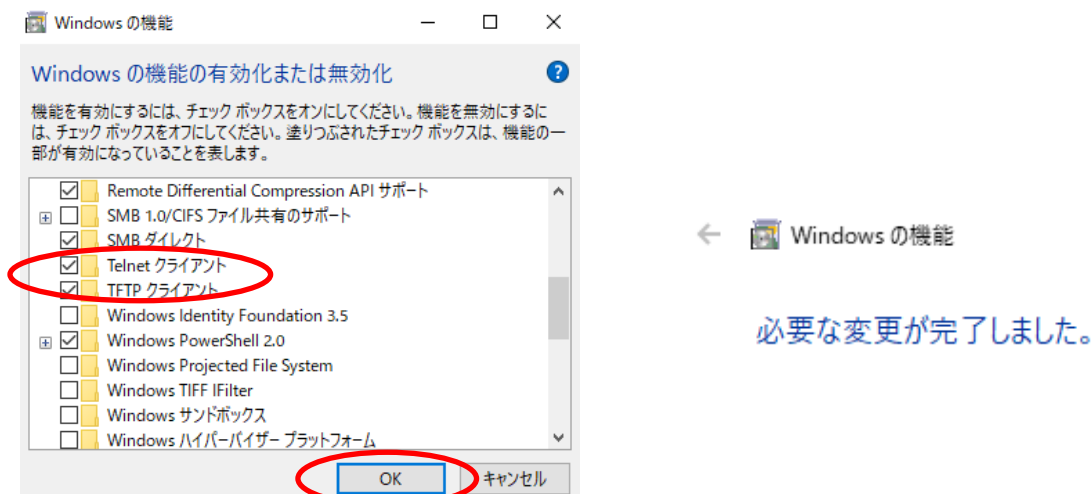
## PC の設定 - TFTP & Telnet を有効にする

ACM200 本体のファームウェアアップデート用 PC ソフトウェアを使用する前に、PC の TFTP と Telnet の両方の機能を有効に設定する必要があります。以下手順に従い TFTP と Telnet 機能を有効にしてください。(Windows 10)

1. PC のコントロールパネルを起動し、プログラム→プログラムと機能 の順に選択します。
2. 画面左側にある‘Windows の機能の有効化または無効化’を選択します。



3. ‘Windows 機能’ ポップアップ画面内の ‘Telnet Client’ 及び ‘TFTP Client’ にチェックを入れ、‘OK’ を選択します。



## PC の設定 – IP アドレスの固定方法

ACM200 との通信を確立するには、ご利用の PC の IP アドレスを ACM200 のコントロール LAN 端子(またはビデオ LAN(PoE)端子の IP アドレス)と同じ IP セグメントに設定されている必要があります。

### 初期 IP アドレス

コントロール LAN 端子: **192.168.0.225**

ビデオ LAN(PoE)端子: **169.254.2.225**

### PC の IP アドレス変更方法

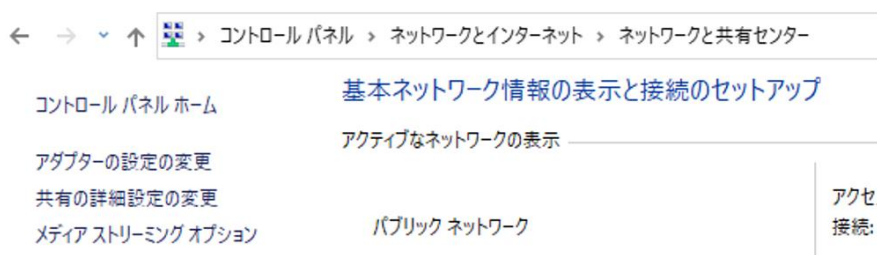
1. Windows ツールバーから‘コントロールパネル’を選択します。
2. ‘ネットワークインターネット’を選択します。



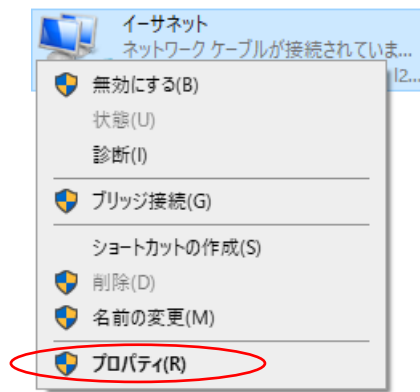
3. ‘ネットワークの状態とタスクの表示’を選択します。



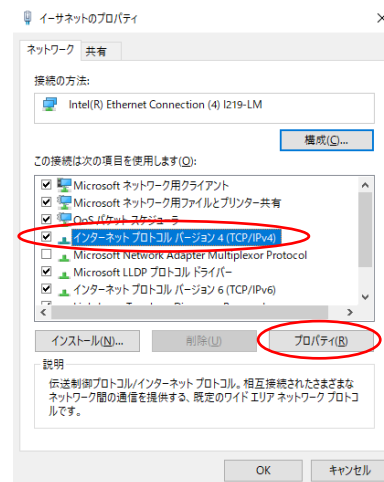
4. ‘アダプターの設定の変更’を選択します。



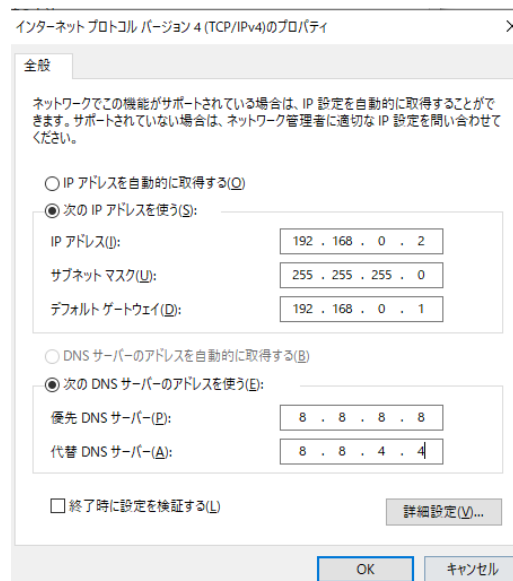
5. 'イーサネット' を右クリックし、'プロパティ' を選択します。



6. 'インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)' を選択し、'プロパティ' を選択します。



7. '次の IP アドレスを使う' にチェックを入れ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。'OK' → 'OK' の順に選択すると、新しい設定が適用されます。

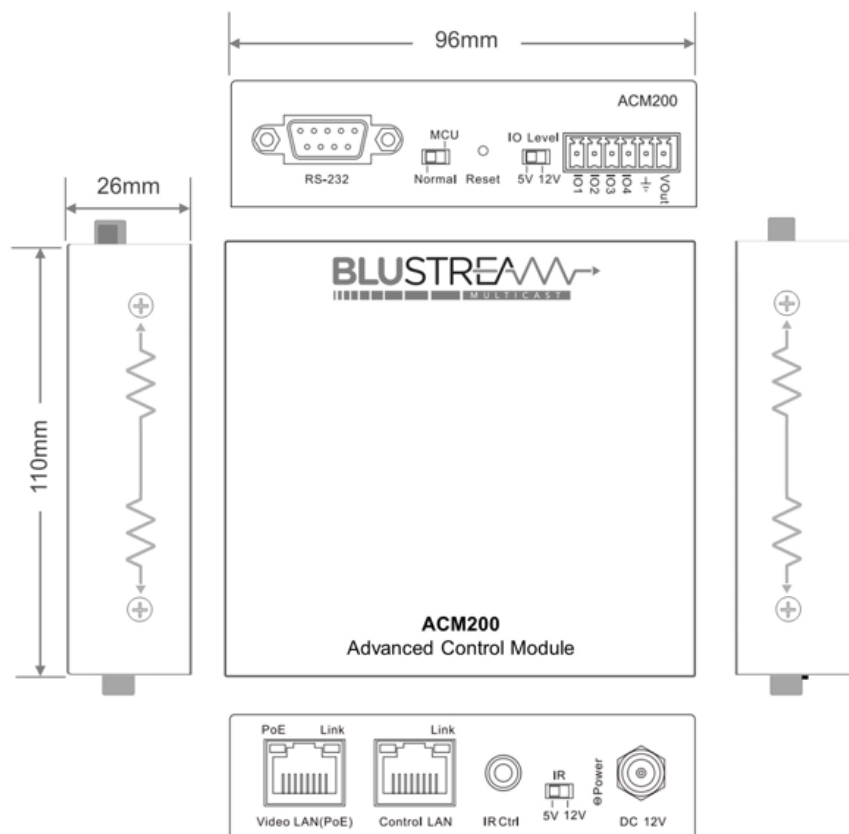


## 主な仕様

項目	詳細	
製品型番	ACM200	
I/O	ネットワーク	RJ-45 x 2 ※ビデオ LAN 端子 PoE(IEEE802.3af)対応
	RS-232	D サブ 9 ピン(メス) x 1
	GPIO	6 ピンターミナルブロック x 1
	IR 入力	3.5mm ステレオジャック x 1
電源	PoE、または DC 12V(AC アダプター別売)	
動作温度	0°C~40°C	
保存温度	-20°C~60°C	
動作/保存湿度	10~90% ※結露なきこと	
重量	約300g	
外形寸法(WxDxH)	96mm x 110mm x 26mm (突起物を除く)	
同梱物	ACM200 本体 x 1/ 3.5mm ステレオピンジャックケーブル(IR コントロール用)x 1/ 6 ピンターミナルブロック x 1/ 取付金具(ネジ 6 本付属) x 2	
製品保証	ご購入日より 3 年間	
認証	FCC Class B/ CE/ RoHS	

※ 外観、および各仕様につきましては予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

## 外形寸法



## サポート専用ダイヤル及び専用メールアドレス

・お問い合わせの前に…「FAQ よくある質問」をご参照ください。

[www.ad-techno.com/support/info/faq/](http://www.ad-techno.com/support/info/faq/)

**それでも解決しない場合：**

**製品のお問い合わせ：** [www.ad-techno.com/support/info/contact/](http://www.ad-techno.com/support/info/contact/)

**修理のご相談：** [www.ad-techno.com/support/service/contact/](http://www.ad-techno.com/support/service/contact/)

お問い合わせの際は以下内容をご確認ください。

- ・弊社製品の型番及びシリアル番号
- ・ご質問内容(症状など)

### 注意

本製品のサポートは日本国内での対応となります。国外での使用に関して発生した不具合に関してはいかなる責任も負いかねます。

また日本国外からの問い合わせ、技術サポートは行っておりません。